

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
「大規模イベント時の健康危機管理対応に資する研究」

分担研究報告書

「海外事例の検討」

研究分担者 研究分担者 市村 康典
(国立国際医療研究センター国際医療協力局 医師)

研究要旨

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が継続する中で、各国は大規模イベントの制限に代表される公衆衛生的・社会的対策（public health and social measures : PHSM）等の対策を実施してきた。本研究では、新型コロナウイルス感染症流行下における対応後もしくは対応中評価手法に関する調査、対応中評価の実施に関する調査、新型コロナウイルス感染症流行下の海外大規模イベントの対応に関する調査について実施した。得られた教訓を体系的に把握して対応していくことは、準備などの計画や医療システム強化、大規模イベントを含めた健康危機管理にも有用である。

A. 研究目的

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が継続する中で、各国は大規模イベントの制限をはじめとする公衆衛生的・社会的対策を実施してきた。このような対応は、各国の状況に基づいて差異が認められる。また、実施してきた対応の評価、戦略上の優先事項の特定、学んだ教訓の各国との共有を行う必要がある、これらを通じて将来的な対応を適切に行うことが可能となる。また、学んだ教訓を体系的に把握して対応していくことは、準備などの計画や医療システム強化、大規模イベントを含めた健康危機管理にも有用である。世界保健機関（World Health Organization: WHO）が作成した新型コロナウイルス感染症の戦略的準備対応計画（Strategic Preparedness and Response Plan: SPRP）の中で、国際保健規則（2005年）に基づいて対応後評価（アフターアクションレビュー, After Action Review: AAR）および対応中評価（インアクションレビュー, In (Intra) Action

Review: IAR）を実施することが求められている。また、新型コロナウイルスアウトブレイクに関する第4回国際保健規則緊急委員会でも対応中評価の必要性が強調されている。

本研究では、海外における新型コロナウイルス感染症が流行する中での対応後評価および対応中評価の文献レビューを行うとともに、実施状況について調査し、課題について検討した。また、新型コロナウイルス感染症流行下における大規模イベントへの対応について調査した。

B. 研究方法

(1) 新型コロナウイルス感染症流行下における対応後もしくは対応中評価手法に関する調査

新型コロナウイルス感染症流行下における対応後もしくは対応中評価に係る文献や指針等の資料を収集、分類、整理し、手法について分析、検討した。収集した文献は分類とリスト化し、今後のマシギャザリング

等健康危機管理研究の参考となるようデータベース化を行った。文献調査は、新型コロナウイルス感染症の国際的な流行が認められた2020年2月以降のものを主な対象としたが、感染症のアウトブレイクについてはこれ以前のものも収集した。公開データベース上で、“After-action review”” In-action review”” Intra-action review”” COVID-19”” outbreak”を検索ワードとした。

(2) 海外における新型コロナウイルス感染症流行下における対応中評価に関する調査
新型コロナウイルス感染症流行下の対応に対し、海外で主に国や県レベルで対応中評価を実施した事例を収集・分析し、進捗や手法について検討した。

(3) 新型コロナウイルス感染症流行下の海外大規模イベントの対応に関する調査
新型コロナウイルス感染症流行下における大規模イベントへの対応について、大規模イベントに関する報告書および指針等について公開されている情報を収集し、分析、検討した。

(倫理面への配慮)

公開されているデータをもとに検討を行った。

C. 研究結果

(1) 新型コロナウイルス感染症流行下における対応後もしくは対応中評価手法に関する調査

分析対象となった文献は、PubMed 検索で13報が得られた。収集論文リストを表1に示した。

また、指針については、新型コロナウイルス感染症の国際的な流行が認められた2020

年2月以降のもので以下の3文書が入手できた。概要と考察を以下に記載する。

I. World Health Organization “Guidance for conducting a country COVID-19 intra-action review (IAR)”

本ガイダンスは、各国が国および地方におけるCOVID-19対応について継続的な対応中評価を実施し、各国におけるCOVID-19流行への対応の教訓を確認し、対応を改善できるようにWHOが2020年7月に作成した。また、このような対応中評価は、対応の改善などだけではなく、同時に発生した緊急事態の管理の改善や長期的な健康危機管理に貢献する可能性がある。

本ガイダンスの中では、対応中評価の段階として以下を挙げている。

①対応中評価の実施前

- ・設計
- ・準備

②対応中評価の実施中

- ・実行

③対応後評価

- ・結果とりまとめ
- ・フォローアップ

下記の様式についても附属し、各国が対応中評価を実施しやすくするようにも試みられている。

- ・コンセプトノート
- ・ファシリテーターのマニュアル
- ・議事次第
- ・対応中評価説明スライド
- ・探求の引き金となる質問リスト
- ・会議中メモ
- ・最終報告書
- ・参加者フィードバック用紙
- ・成功事例の紹介

II . European Centre for Disease Prevention and Control “ Conducting in-action and after-action reviews of the public health response to COVID-19”

欧州疾病予防管理センター (European Centre for Disease Prevention and Control: ECDC)により 2020年6月に作成された本ガイダンスは、COVID-19に対する公衆衛生上の対応に焦点を当てた対応後評価および対応中評価 (IAR) の実施を支援することを目的としている。対応後評価では、対応中に実行されたアクションを体系立って定性的に評価する。対応中評価では、対応後評価と同様にベストプラクティスと学んだ教訓の特定を行うが、実行中の対応を改善するため、より厳密な時間設定で評価する。

本ガイダンスは、対応後評価に関する既存の ECDC および WHO の文書を補完するように意図されている。

2つのパートから構成され、第1部では対応後評価および対応中評価の主な段階について、第2部では特に COVID-19 に対する対応後評価および対応中評価での留意点について述べられている。

対応後評価および対応中評価の主な4段階 (設計、準備、実施、普及) については、以下の内容が含まれていた。

① 設計

- ・評価対象とする対応の範囲を設定する
- ・関係者分析を実施して、適切な関係者とセクターが含まれていることを確認する
- ・ベストプラクティスに基づいて、適切な対応後評価・対応中評価手法を選択する
- ・評価チームを設定する
- ・詳細な議題を作成する
- ・ワークショップやインタビューの日付と場所を決定する

- ・予算を見積もり、分配する

② 準備

- ・評価する範囲に関連する事象の情報を収集する
- ・探求の引き金となる質問とインタビュー質問票を準備する (必要な場合)
- ・ファシリテーターを含むチームメンバーを簡単に説明し、研修する (必要な場合)
- ・ワークショップやインタビューに必要な資料を収集する

③ 実施

- ・適切な手法に従ってワークショップを行う (例: イベントストーミング、インタビュー、振り返りの促進)
- ・予備調査結果をすべての参加者に報告する
- ・参加者間で対応後評価/対応中評価自体を評価する

④ 普及

- ・手法、結果、結論を記載した最終報告書での所見を照合する; グッドプラクティスと学んだ教訓の要約を行う (可能な場合にはエビデンスに基づく)
- ・最終報告書を実行可能かつ適切な範囲で広く配布する
- ・重要な推奨事項を実装するためのアクションプランを作成する

III . European Centre for Disease Prevention and Control “ One-day in-action review (IAR) protocol in the context of COVID-19”

本ガイダンスはIIと同じく ECDC が2021年3月に作成したものであり、IIを含めた既存のガイダンスを補完し、1日で実施する対応中評価を実施するための主要なステップを示している。これは、COVID-19の対応を行う多くの公衆衛生機関が直面している時間

的制約を考慮したもので、1日で実施する対応中評価は、1日で、または1日当たり半日を2日にわたることで実施できるので手頃である。また、このプロトコルの一部を使用し、さらに短い対応中評価 IAR (たとえば、半日で実施する IAR) を開発することも可能としている。

II と比較し、1日での実施に向けて具体的に手順が述べられている。基本的な段階は II と同様であるが、フォーマットの中には、事後評価を実施する ECDC ベストプラクティス枠組みでも挙げられた3つの主要段階(情報収集と分析、問題の特定、解決策の提案)に加え、将来的な見通しの要素も追加している。また、オンライン会議による実施も提唱している。

総評 新型コロナウイルス感染症の流行に対応し、各機関が対応中評価手法に関するガイダンスを示していた。新型コロナウイルス感染症の流行が長期化するにつれ、対策における課題は顕在化し、また時間に応じて変化が認められる。このような中で対応中評価を行うことは対応を進める中で有用であるが、一方で対応を継続している中に実施することから、評価による負担を軽減すべきである。今回得られた文書では、対応中評価に求められる要素をわかりやすく、かつ多忙中での実施が可能なようにコンパクトにまとめられていた。このような実践的な評価を適時に行うことは、大規模イベントへの備えにおいても有用と考えられる。

(2) 海外における新型コロナウイルス感染症流行下における対応中評価に関する調査
国際保健規則のモニタリングと評価のフレームワーク (Monitoring and Evaluation

Framework: IHR-MEF) で報告された各国の対応状況によると 2021 年 4 月までに 45 か国で 58 評価が実施された (IHR MEF Weekly Update 9 April 2021)。

このうち、7 か国の報告書を入手した。

地理的分布について、WHO の地域分類では、アフリカ地域:24 か国、南北アメリカ地域:1 か国、南東アジア地域:5 か国、ヨーロッパ地域:6 か国、東地中海地域:5 か国、西太平洋地域:4 か国であり、実施された割合はアフリカ地域および南東アジア地域で高かった。このうち、38 か国で 2020 年末までに実施し、特に 9 月から 12 月末までに 26 か国が実施していた。実施期間がわかるもののうち、18 評価 (35%) が 2 日以内に、38 評価 (73%) が 5 日以内に実施し、対応中評価は限られた日数で実施できていた。

(3) 新型コロナウイルス感染症流行下の海外大規模イベントの対応に関する調査
海外で実施した大規模イベントにかかる報告書または指針として、以下の 3 文書を手し、内容を分析した。

I. UK Department for Digital, Culture, Media & Sport, Department of Health and Social Care 等: “Public Health Impact of Mass Sporting and Cultural Events in a rising COVID-19 prevalence in England”
英国イベント研究プログラムが大規模イベントへの参加による COVID-19 の感染リスクを調査したものがまとめられている。各イベントでの対策に差異はあったが、すべてにおいて新型コロナウイルス感染症に対する免疫証明 (認証ワクチンの完全接種または 180 日以内の感染)、または NHS COVID-19 アプリでの入場時の確認で 48 時間以内に受けた陰性の検査結果を示すことが求められた。イベント全体で報告された新型コロナ

ウイルス感染症陽性者数の増加は、この期間の地域有病率の増加を反映したものであった。しかし、EURO2020 では他のイベントに比べて症例数が多く、参加者が長時間近くにいる非構造的なイベント、会場の高密度ピンチポイントにいる観客、イベントへの移動時、イベントの前後や室内での混雑時には、慎重な対応が必要と指摘されている。

II. The International Olympic Committee (IOC), the International Paralympic Committee (IPC) and the Beijing Organising Committee for the 2022 Olympic and Paralympic Winter Games (Beijing 2022): The Playbook for athletes and team officials (version 2)

2022年1月23日から2月23日に開催された第24回オリンピック冬季競技大会（北京オリンピック）および2022年2月24日から3月16日に開催された2022年北京パラリンピックで使用された、選手等に対する新型コロナウイルス感染症の指針である。同大会では、選手等に対して、主に出国前検査（出発72時間以内に新型コロナウイルス（PCR）検査を1回）とクローズドループシステム（大会参加者は、到着と同時に本システムに入り、滞在21日間、宿泊施設、交通機関、事前に合意済みの特定の訪問先にて行動すること）への遵守が求められた。また、検疫を受けずにクローズドループシステムに入るためには、中国へ出発する14日前までに、完全なワクチン接種が義務づけられた。また、大会期間中にはアプリを通じた体調の報告と、毎日の新型コロナウイルススクリーニング検査が求められた。スクリーニング検査には医療スタッフによる咽頭拭い検体が、確定検査としては鼻咽

頭拭い検体が用いられた。

大会に参加するすべての団体は、第32回オリンピック競技大会・東京2020パラリンピック競技大会と同様に新型コロナウイルス感染症対策責任者（CLO）の指定が求められ、CLOに対する明確な役割も定められた。結果的に、北京オリンピックでは437件の陽性者が報告され、感染率は0.01%とされている。

III. World Health Organization: “WHO Mass Gathering COVID-19 Risk Assessment Tool - Generic Events, version 2”

大規模イベントの計画には、大規模イベントに関連して疾患が蔓延する全体的なリスクを判断するためのリスクアセスメントの実施が含まれる。本ツールは、新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、WHOはマスクギャザリングのためのリスクアセスメントツールを考案した。その中には、開催国やマスクギャザリングの主催者がCOVID-19の特定のリスクのアセスメントを行う際に使用できるように考案されたリスク評価、リスク軽減、リスクコミュニケーションの戦略も含まれる。そして、総合的なリスクを評価するためには、以下の要素も考慮する；新型コロナウイルス感染症のアウトブレイクの現段階と判明している感染力、参加者の地理的分布と人数、および個々のリスクプロファイルの動勢、リスク評価ツール、現在実施されているまたは実施可能な軽減策。また、リスクアセスメントは、モニタリング・レビュー、報告などを通じて、変化に応じた更新が行われる必要がある。

リスクアセスメントの実施と実行は、大規模イベントを実施していく上で有用である。

D. 考察

新型コロナウイルス感染症の各国および地方による対応について、対応後評価および対応中評価の重要性はあらためて認識されてきている。新型コロナウイルス感染症の流行により、公衆衛生当局の中でこの対応に多くの時間と労力が割かれる中では、短期間に実施可能である対応中評価は有用な方法であり、その実施も海外で進められていた。現在進行形で対応している事案に対する対応の評価が可能であることから、大規模イベントを含めた健康危機管理時に対応中評価は有用である可能性がある。

また、新型コロナウイルス感染症の流行下でも大規模イベントの開催が認められた。流行状況やワクチン接種の進行に合わせた新型コロナウイルス感染症への対策を行うことで、各イベントの実施が可能であった。事前の準備やリスクアセスメントは実施を行う上で必須である。

E. 結論

新型コロナウイルス感染症の流行や大規模イベントへの準備など、長期間の対応が求められる事例については、対応中評価の実施が有用と考えられる。また、対応の教訓を体系的に把握して対応していくことは、準備などの計画や医療システム強化、大規模イベントを含めた健康危機管理にも有用である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得 特になし
2. 実用新案登録： 特になし
3. その他：特になし

表 1 新型コロナウイルス感染症流行下における対応後もしくは対応中評価手法に関する調査 分析対象論文

通し番号	PM ID	論文題名	著者	論文	DOI
1	33637080	Testing early warning and response systems through a full-scale exercise in Vietnam	Clara A, Dao ATP, Tran Q, Tran PD, Dang TQ, Nguyen HT, Tran QD, Rzeszotarski P, Taibert K, Stohling-Ariza T, Veasey F, Clemens L, Mounts AW, Lofgren H, Balajee SA, Do TT.	BMJ Public Health. 2021 Feb 26;21(1):409. doi:10.1186/s12889-021-10402-x.	10.1186/s12889-021-10402-x
2	33422809	Provision of acute renal replacement therapy, using three separate modalities, in critically ill patients during the COVID-19 pandemic. An after action review from a UK tertiary critical care centre	Fisher R, Clarke J, Al-Arifi K, Saha R, Lioudaki E, Mehta R, Pahl C, Sharpe C, Bramham K, Hutchings S.	J Crit Care. 2021 Apr;62:190-196. doi:10.1016/j.jccr.2020.12.023. Epub 2020 Dec 28.	10.1016/j.jccr.2020.12.023
3	33261622	Simulation exercises and after action reviews - analysis of outputs during 2016-2019 to strengthen global health emergency preparedness and response	Copper FA, Maygane LN, Pei Y, Charles D, Nguyen TN, Vente C, Chiu de Vázquez C, Bell A, Njunge HK, Kandel N, Ho ZM, Omaar A, de la Rocque S, Chungong S.	Global Health. 2020 Dec 1;16(1):15. doi:10.1186/s12992-020-00632-w.	10.1186/s12992-020-00632-w
4	33046918	Best practices for after-action review: turning lessons observed into lessons learned for preparedness policy	Parker GW.	Rev Sci Tech. 2020 Aug;39(2):579-590. doi:10.20506/rst39.2.3108.	10.20506/rst39.2.3108
5	30969271	Regional After-Action Review Among Local Health Department Personnel After Hurricane Matthew in Eastern North Carolina, United States	Lea CS, Beasley CM, Cox A.	J Public Health Manag Pract. 2019 Nov/Dec;25(6):606-609. doi:10.1097/PHH.0000000000000989.	10.1097/PHH.0000000000000989
6	29889961	Survey of Casualty Evacuation Missions Conducted by the 160th Special Operations Aviation Regiment During the Afghanistan Conflict	Redman TT, Mayberry KE, Mora AG, Benedict BA, Ross EM, Mapp JG, Kobwal RS.	J Spec Oper Med. 2018 Summer;18(2):79-85.	
7	29165783	After-action review of the 2009-10 H1N1 Influenza Outbreak Response: Ohio's Public Health System's performance	Mase WA, Bickford B, Thomas CL, Jones SD, Bisesi M.	J Emerg Manag. 2017 Sep/Oct;15(5):325-334. doi:10.5055/jem.2017.0340.	10.5055/jem.2017.0340
8	28751468	Overcoming Operational Challenges to Ebola Case Investigation in Sierra Leone	Toland S, Polich E, Connolly A, Hoar A, Sesay T, Tran AA.	Glob Health Sci Pract. 2017 Sep 28;5(3):456-467. doi:10.9745/GHSP-D-17-00126. Print 2017 Sep 27.	10.9745/GHSP-D-17-00126
9	26094685	Leadership During the Boston Marathon Bombings: A Qualitative After-Action Review	Gorahnick E, Halpern P, Loo S, Gates J, Biddinger P, Fisher J, Veinikos G, Chung S, Mooney D, Brown C, Barnwell B, Burke P, Gupta A, Ulrich A, Hojnacki H, McNulty E, Dorn B, Marcus L, Peleg K.	Disaster Med Public Health Prep. 2015 Oct;9(5):489-95. doi:10.1017/dmp.2015.42. Epub 2015 Jun 22.	10.1017/dmp.2015.42
10	21465760	[Looking back but facing ahead: implementing lessons learned from the 2nd Lebanon War]	Adini B, Laor D, Lev B, Israeli A.	Harefuah. 2010 Jul;149(7):451-5, 480.	
11	19722829	H1N1 after action review: learning from the unexpected, the success and the fear	Fidler DP.	Future Microbiol. 2009 Sep;4(7):767-9. doi:10.2217/fmb.09.54.	10.2217/fmb.09.54
12	16998396	Airplane crash in Guam, August 6, 1997: the aeromedical evacuation response	Cancio LC.	J Burn Care Res. 2006 Sep-Oct;27(5):642-8. doi:10.1097/01.BCR.0000238097.10219.66.	10.1097/01.BCR.0000238097.10219.66
13	33150284	Emergency Department Well-being Initiatives During the COVID-19 Pandemic: An After-action Review	Zaidi SR, Shama VK, Tsai SL, Flores S, Lem PC, Castillo J.	AEM Educ Train. 2020 Jul;14(4):411-414. doi:10.1002/aet2.10490. eCollection 2020 Oct.	10.1002/aet2.10490

The International Olympic Committee (IOC), the International Paralympic Committee (IPC) and the Beijing Organising Committee for the 2022 Olympic and Paralympic Winter Games (Beijing 2022)

The Playbook for athletes and team officials (version 2) 抜粋・仮訳

プレイブックは、以下の例外を除き、すべてのフェーズを通して有効です。

ビザ：入国にはビザが必要です。北京 2022 は招待状を発行し、ビザの申請をお手伝いします。

出国前検査：出発後 72 時間以内に COVID-19 (PCR) 検査を 1 回行う必要があります。過去に COVID-19 に感染したことがあるゲーム参加者は、追加の検査と書類が必要です。

クロズド・ループ・システム：ワクチン接種を受けた大会参加者は、到着と同時にクロズドループ・システムに入ります。滞在 21 日間、宿泊施設、交通機関、北京 2022 と事前に合意済みの特定の訪問先が含まれます。参加者全員が同じクロズドループに入るわけではありません。他のクロズドループの参加者との交流は慎重に管理されます。22 日目から、ループの完全性が保たれている限り、自由な移動が可能になります。

オリンピック大会日程

2022 年 1 月 23 日から 2 月 23 日

フライト：大会参加者は、出発予定日の平日 15 日までに、フライトのリクエスト（往復の日程）を北京 2022 の担当者に提出すること。北京 2022 は、フライトのリクエストが期限内に提供された場合、7 日以内にフライトの選択肢を提供します。

運営計画：大会参加者は、中国到着の 15 日前までに、会場へのアクセスや交通手段などのニーズを網羅した運営計画を北京 2022 の連絡先に提供すること。

クロズド・ループ・システム：ゲーム参加者は、提出した運営計画を実行するために、クロズドループ内の会場に行くことができます。1 日に複数の会場を訪問し、他の大会参加者がいる会場で作業を行うことができます。

宿泊施設：この期間、参加者は需要に応じて、大会期間と同様の飲食サービスを提供する大会公式ホテルを選択することができます。ほとんどの場合、これらのホテルは、大会期間中のホテルと同じになります。

移動：移動サービスは、運営計画書に記載されたニーズに基づいて提供されます。大会タクシーは必要に応じて利用でき、長期間のチャーターも可能です。観光バスや小型バスのチャーターもあります。

飲食料品：食べ物、飲み物の選択肢は会場提供され、各会場でサービスレベルが異なります。

大会前*

2022年1月4日から1月22日

プレイブック原則：プレイブック原則、および旅程各ステージのための具体的な施策が、すべて有効になります。

パラリンピック大会日程

2022年2月24日から3月16日

オリンピック大会日程と同じ原理を適用し、全期間クローズドループ方式。

中国からの出国後の再入国：参加者は、オリンピック大会閉幕からパラリンピック大会開幕までの間、中国から出国することは要求されていませんが、一旦出国して再入国しても構いません。その場合は、渡航前の検査や入国条件を、すべてもう一度完了する必要があります。

大会後

2022年3月17日以降

大会前期間と同じ原則が適用されます。

*この期間の運用に関するより詳細な情報は、NOC/NPC に提供された「Closed Loop Policy 4-22 January」に記載されています。

ワクチン接種

原則

ワクチンは、COVID-19 の感染や伝播を減少させることが証明されており、安全に活動を行うための重要なツールとなっています。検疫を受けずにクローズドループシステム（p. 9～10 参照）に入るためには、中国へ出発する 14 日前までに、完全なワクチン接種が義務づけられます。

完全なワクチン接種を受けたかどうかは、参加者が居住する国や地域、またはワクチンを投与する国の保健機関の必要条件に従って、判断します。これは、その必要条件や、ワクチンの種類、個人の病歴、過去の感染証明があり、完全なワクチン接種が受けられないことによって、ワクチン接種は 1 回、2 回、または 3 回になります。

大会参加者にはブースター接種を受けることを強くお勧めしますが、ブースター接種を受ける必要がある場合は、参加者の居住国や地域、またはワクチンを投与した国の保健当局の要求に従ってください。

ワクチン接種が完了していない方は、北京到着後 21 日間の隔離が必要です。選手やチームスタッフは、医学的な理由に基づき、ケースバイケースで免除が認められる場合があります。医学的免除の詳細な基準は、北京 2022 と IOC/IPC が指名する医学専門家の合同委

員会によって設定されています。この基準は以下の通りです。

- COVID-19 ワクチンの成分に対する重度なアレルギー反応またはアナフィラキシー*
- mRNA COVID-19 ワクチン接種後の心筋炎または心膜炎*
- 予防接種後の重篤な有害事象（入院を余儀なくされたなど）*
- COVID-19 ワクチン接種後の血小板減少症候群（TTS）/ワクチン誘発性免疫性血小板減少症（VITT）の発症*
- 妊娠中および産後のワクチン接種が認められていない国から来た妊婦
- 免疫抑制剤を使用中
- 居住する国や地域においてワクチン接種の対象にならない年齢層。

* 初回投与後に反応が出た場合、それに続く投与は免除。

• 医療専門家パネル (MEP)

- MEP は、中国疾病管理センター（CDC）、北京疾病管理センターのメンバーに、国際オリンピック委員会（IOC）、国際パラリンピック委員会（IPC）、冬季国際競技連盟（IF）からの国際専門家代表 5 人を加えた、20 人のメンバーで構成されています。
- あなたの渡航前に予防接種の免除の有無を確認、審査します。
- スクリーニング検査結果を解釈するためのプロトコルも開発中です。
- この参加者グループは、濃厚接触者の管理を含む複雑なケースの分析に呼ばれることがあります。第 7 頁に詳述されている基準に従って免除される場合、コロナ対策責任者（CLO）に相談してください。居住する国や地域の保健当局または主治医からの正式な医療文書を、国内オリンピック委員会（NOC）や国内パラリンピック委員会（NPC）の医療担当者またはチーフ・メディカル・オフィサーを通じて、MEP に提出する必要があります。MEP は、あなたのケースを検討し、地域の公衆衛生機関と連絡を取ります。その決定は、7 日以内に通知されます。免除対象者は、ワクチン接種者と同じようにクローズド・ループ・システムに入ることができるようになります。

IOC および IPC は、NOC および NPC と協力して、それぞれの地域で開催されるすべての大会参加者が、国や地域の予防接種ガイドラインに従い、中国に行く前に自国で予防接種を受けることを奨励し、支援しています。この点については、ほとんどの国や地域の政府、地方機関が、すでに前向きな措置をとっています。

IOC は引き続き、NOC および NPC のワクチン接種を支援します。ご質問は、NOC の場合は IOC-NOC リレーションズ部へ、NPC の場合は各 NOC へお問い合わせください。

クローズド・ループ

大会参加者と中国国民の安全を守るため、不要な交流を減らし、大会中の役割に不可欠な日常的な活動を可能にする特別なシステムが定められています。

このクローズド・ループ・システムにより、ワクチン接種が完了していれば、21 日間の強制隔離を受けることなく中国に入国することができます。

クローズド・ループ内では、すべての大会参加者が毎日健康状態の観察と検査を受け、大

会専用の輸送手段で許可された目的地（大会会場、宿泊施設などを含む）*間の移動が許可されます。これは、一般市民やクローズド・ループ外の人物との接触がないようにするためです。

クローズド・ループ・システムは、中国滞在中、常時適用されます。

ワクチン接種が完了していない場合は、クローズド・ループ・システムに入る前に、専用の施設で、21日間隔離する必要があります。

*クローズド・ループ内の許可された目的地の最新リストは、あなたの NOC、NPC と共有されています。大会までの間、必要に応じてさらに更新される予定です。

コロナ対策責任者 (COVID-19 LIAISON OFFICERS)

大会に参加するすべての団体は、COVID-19 対策責任者 (CLO) を指名しています。その役割は次の通りです。

- このプレイブックの内容、規則を遵守することの重要性、および遵守しなかった場合に起こりうる結果（法的な結果を含む）を確実に理解できるようサポートします。
- NOC、NPC の標準的なコミュニケーション経路を使用して、定期的にあなたと連絡を取ります。
- 中国に渡航する前に必要な書類の作成をお手伝いします。質問や懸案があれば聞いてみてください。

CLO は専用のオンラインポータルを利用し、その役割を成功裏に遂行するための最新の利用可能な情報および説明資料にアクセスすることができます。追加の情報は、大会までに発表される予定です。

検査、トレード、隔離

COVID-19 の感染拡大を食い止めるには、ヒトからヒトへの感染連鎖を断ち切ることが重要です。そのためには、検査によって誰が COVID-19 ウイルスを持っているかをできるだけ早く特定し、接触歴追跡によってウイルスが誰に渡ったかを把握し、隔離と検疫によってウイルスのさらなる拡散を阻止するための厳格なプロトコルが重要な意味を持ちます。

#1

中国への出発の 14 日前までに、予防接種を完了していることを確認してください（第 7 頁の定義参照）。

#2

「My 2022」アプリをダウンロードし、中国への出発 14 日前から、毎日の健康状態を観察し、記録してください。

#3

中国への出発前に検査を受け、陰性であることを証明する書類を提出してください。中国の北京首都国際空港に到着後、再度検査を受けてください。

#4

大会期間中、毎日 COVID-19 のスクリーニング検査を受けてください。

#5

何らかの症状が出た場合、または中国の保健当局から指示された場合（密接な接触者として特定された場合など）、検査を受けてください。検査結果が陽性であれば、隔離する必要があります。

密接接触者とは、COVID-19 が陽性であることが確認された人と、フェイスマスク（KN95、N95、FFP2、またはあなたの居住する国や地域で認められている同等の保護基準）を着用せずに、1メートル以内で長時間（15分以上）接触した人を指します。

身体的な関わり合いを最小限にする

COVID-19 は、主に咳やくしゃみ、話し声、叫び声、歌声によって吐き出される呼気中の小さな液体粒子を通して感染します。これらの粒子は、呼吸器系の大きな飛沫から小さなエアロゾルまで、さまざまな種類があります。ウイルスを含むエアロゾルや飛沫を吸い込んだり、目、鼻、口に接触することで感染する可能性があります。

COVID-19 は、人混みや風通しの悪い場所、COVID-19 に感染している人の近くで過ごす、感染するリスクが高まります。そのため、予防接種を受け、身体的な交流を最小限に抑え、マスクを着用し、密閉された空間や人混み、密接な接触を伴う空間を避けることが重要です。

#1

中国渡航の 14 日前から、他人との身体的な関わり合いは最小限に抑える。

#2

抱擁や握手など、身体的な接触は避ける。

#3

選手とは 2 メートル以上、それ以外の人とは 1 メートル以上の距離を保つ（作業スペースも含む）

#4

密閉された空間や人ごみは、できるだけ避ける。

#5

大会専用交通機関を利用する。移動区間によっては、高速鉄道の一部の車両がクローズド・ループ内の人たち専用として確保されています。

#6

大会でのあなたの役割に関連する活動のみを、許可された目的地リストにある場所にて行ってください。

衛生に気をつけましょう

ウイルスに汚染された表面を手で触り、その後に目や鼻、口を触ると、感染する危険性が

あります。だからこそ、衛生管理の基本を忘れてはなりません。定期的に徹底して手を清潔にすること、物の表面を消毒すること、顔に触れないことなどです。WHO のガイドライン ([WHO guidelines](#)) に沿って、常にマスクを着用してください。

- 鼻、口、あごをしっかりカバーすること。
- マスクをつける前、外す前と外した後、触った後には、必ず手を洗うこと。
- マスクを脱いだら、清潔なビニール袋に入れて保管すること。布製マスクの場合は毎日洗濯するか、ゴミ箱に廃棄すること。
- バルブ付きマスクは使用しない。

中国に滞在中は常時、衛生管理を徹底してください。

#1

吸気バルブのないフェイスマスク (KN95、N95、FFP2、または居住する国や地域で認められている同等の保護規格) を常に適切に装着してください (練習中、競技中、飲食中、または一人の時を除く)。

#2

定期的に手を洗い、可能な限り手指消毒剤を使用してください。

#3

歌や声援ではなく、拍手で選手を応援してください。

#4

可能な限り物品の共有を避ける、または消毒してください。

#5

滞在先の部屋は定期的に換気してください。

渡航前に

このプレイブックを熟読してください。

渡航前に、プレイブックの内容を把握し、その中のルールを完全に遵守することの重要性を理解したことを確認してください。「コンプライアンスと結果責任」(第 68~69 頁) 参照。

何か質問がある場合は、できるだけ早く NOC、NPC または CLO に連絡してください。

中国への入国に関する規則は、大会のための関係機関の要求に従ったものです。渡航の 15 日前 (出国前テストを含む) から、渡航中も適用されます。この期間に、適切な考え方をを用いることが大切です。

• 渡航前の CLO によるサポート

– CLO は、あなたが確実にプレイブックを理解し、遵守することをサポートします。

– スマートフォン用アプリ「My 2022」のダウンロードやインストール、入国に必要な QR コードの取得に問題がある場合、援助します。

- 出発前に COVID-19 の陽性反応が出た場合は、すぐに CLO に知らせてください。
- 各施策に疑問や不安をお持ちの方は、今が質問するチャンスです！
- **中国への渡航および滞在の全期間をカバーする医療保険および本国送還保険（COVID-19 を含む）への加入が必要です。**
- 北京 2022 は、オリンピック村のプレオープンからパラリンピック村の閉村までの期間（2022 年 1 月 23 日から 2022 年 3 月 16 日）、治療および本国送還保険（COVID-19 の補償を含む）を提供します。この保険は中国国内で発生した費用のみに適用されるので、気をつけてください。
- この期間外については、大会の標準的な慣習に従い、NOC、NPC が、代表団メンバーの保険を提供してください。
- **選手やチーム関係者は、オリンピック・パラリンピック村に居住することが強く推奨されています。**運営上の理由で不可能な場合は、COVID-19 対策に対応した北京 2022 年契約ホテルに宿泊してください。
- 詳細については、「オリンピック宿泊ポリシー（Olympic accommodation policy）」（2021 年 9 月 30 日発行）または「パラリンピック宿泊ポリシー（Paralympic accommodation policy）」（2021 年 11 月 5 日発行）を参照してください。これらは、「ステークホルダーのための宿泊ガイド（Accommodation Guide for Stakeholders）」、「契約ホテルへの移動に関する大会ステークホルダーガイド（Games Stakeholders Guide on Transferring to Contracted Hotels）」の中で、NOC、NPC と共有しています。
- **プリバリッドカード（Pre-Valid Card; PVC）を必ず所持してください。**このカードは、認証を通して、オリンピック ID および認定カード（Olympic Identity and Accreditation Card; OIAC）や、パラリンピック ID および認定カード（Paralympic Identity and Accreditation Card; PIAC）になります。PVC は、中国への入国書類やビザ免除の役割を果たします。それが無いと、ビザの申請が必要になります。
- 出発の平日 15 日前になっても PVC が届かない場合は、担当の CLO を通じて北京 2022 にご連絡ください。CLO がビザ申請のための招待状を発行します。
- 北京 2022 から招待状が発行されたら、出発の平日 7 日前までに中国大使館か領事館でビザの申請を始めてください。必要書類の詳細については、中国大使館、領事館のホームページをご参照ください。
- 中国行きの際に搭乗する前に、PVC またはビザを取得していることをご確認ください。

北京へのフライト*は、チャーター便、臨時便、定期便で可能になりますが、それは大会認定（PVC または OIAC、PIAC）または北京 2022 招待状でサポートされた有効なビザを保持している場合に限りです。詳細については「北京 2022 年大会時フライト予約手順（Beijing 2022 Games-time flight booking procedure）」（2021 年 11 月 15 日発行）をご覧ください。

- 中国本土への最初の入国地は、北京首都国際空港（PEK）を選んでください。
 - ご自身で、ご希望の航空会社を通してチャーター便を手配することが可能です。他の責任ある組織と協力しながらの予約も含まれます。
 - 航空会社は、中国民用航空局（Civil Aviation Administration of China; CAAC）のホームページ（<https://cat.caac.gov.cn>）、または電話（+86 10 64091902）にて、必要な手配を行うことができます。
 - フライトが確定したら、北京 2022 の連絡先にフライト情報をお知らせください。
 - 北京 2022 と CAAC は、北京首都国際空港を発着する中国および海外の航空会社の臨時便運航許可を推奨しています。
 - T 臨時便を運航できる航空会社のリストと、北京 2022 の関連窓口を、2021 年 11 月 15 日に共有しました。適時更新され、所属 NOC や NPC と共有される予定です。
 - 民間航空便は、通常の航空会社の手続きに従って予約することができます。
 - チャーター便や臨時便の認可手続きには、関係当局にすべての情報を提供してから 20 営業日以上かかる場合がありますので、できるだけ早く予約手続きを開始するようにしてください。
 - チャーター便、臨時便、定期便の航空券を手配する際、航空会社や CAAC とのコミュニケーションにサポートが必要な場合は、北京 2022 の担当者にお尋ねください。
- *このフライト予約方法は、1 月 23 日以降の往路便に適用されます。それ以前に中国へ渡航される場合は、出発予定日の 15 営業日前までに、北京 2022 の担当者に入国便および出国便のリクエストをお伝えください。7 日以内にフライトの旅程を返信いたします。詳細については、NOC、NPC に提供された「大会前フライト予約手順（Pre-Games flight booking procedure）」を参照してください。
- NOC、NPC は、できるだけ早く到着・出発システム（[Arrivals and Departures System; ADS](#)）を通じて、渡航情報を提出してください。**
- オリンピック大会は 2022 年 1 月 10 日まで、パラリンピック大会は 2022 年 2 月 10 日までに、情報を提出してください。
 - ADS 内でのデータ追加、更新、変更は、この日付以降も必要に応じて行うことができますが、遅くとも渡航の 24 時間前までに行う必要があります。渡航前 24 時間以内に変更された場合、到着、出発の移動サービスの保証ができません。
 - NOC、NPC には、グループ単位ではなく、代表団の各メンバーの旅程情報を個別に提出することを強くお勧めします。詳細は、「ADS ユーザーガイド（ADS User Guide）」及びテンプレートの説明書をご参照ください。

検査、接触歴追跡、隔離

- 中国への出発 14 日前までに、スマートフォンアプリ「My 2022」をダウンロードし、健康観察システム（Health Monitoring System; HMS）にログインしてください。詳しく

は「ウェブサイトとスマートフォンアプリ (Websites and smartphone applications) 」 p. 59～64 をご覧ください。

- **中国に渡航する 14 日前までに、予防接種を完了していることを確認してください。**
 - 公認ワクチンとは、世界保健機関 (WHO)、その他の関連国際機関、または国や地域の関連当局によって承認されたものを指します。
 - ワクチン接種証明書を HMS にアップロードしてください。
 - 医学的な理由により、個別に例外を認める場合があります (詳細は p. 7～8 をご覧ください)
 - 北京 2022 年から免除を受けた場合、NOC/NPC の医療担当者は CLO と連絡を取り、中国への入国に関する特別な要件について助言を行います。ワクチン接種を受けた参加者と同じように、クローズドループシステムに入ることになります。
- **中国への出発前 14 日間は、毎日健康状態をチェックしてください。**
 - 毎日体温を測り、HMS に記録してください。一貫性を保つために、毎日同じ時間に健康状態を観察することをお勧めします。
 - 体温調節に困難がある場合は、健康状態のモニタリングを開始する前に、医療文書を CLO に提出してください。CLO はそれに応じて北京 2022 に通知します。
 - その他の COVID-19 の症状がないか、個人の健康状態を積極的にチェックしてください。「COVID-19 の症状に関する WHO ガイドライン ([WHO guidelines on COVID-19 symptoms](#)) 」を参照してください。
- **中国への出発前 14 日間に COVID-19 の症状が現れた場合**
 - 次のステップについて、医療専門家に相談してください。
 - CLO に報告してください。

渡航前検査

- **大会参加者は、中国入国に必要な COVID-19 の検査を受けなければなりません。**
 - 中国へのフライト出発前 96 時間以内 (間接渡航の場合は最終便出発前) に、COVID-19 (PCR) 検査を 2 日に分けて (最低 24 時間間隔) 受けてください。
 - 2 つの検査のうち 1 つは、出発前 72 時間以内に行う必要があります。この検査は、中国大使館または領事館が承認した検査機関で行う必要があります。
 - 承認された検査機関のリストは、中国大使館／領事館のウェブサイトで確認できます。このリストに都合の良い医療機関が含まれていない場合、NOC、NPC、または CLO が、北京 2022 と連絡を取り、同等の検査品質を持つ他の検査機関の受け入れなど、適切な解決策を見つける必要があります。北京 2022 はこのような要請を検討し、7 営業日以内にフィードバックを提供します。
 - 中国大使館、領事館のウェブサイトに認定検査機関のリストがない場合は、ウェブサイトの説明に従って、検査要件を満たす現地の有資格な検査機関を選択することができます。

す。

– その他の COVID-19 検査は、あなたの国や地域の認定検査機関で受けることができます。

– 2つの検査のうちどちらかが陽性であった場合、中国へ渡航しないでください。

• **COVID-19 の感染歴がなく、完全なワクチン接種を受けている場合**、中国への入国に際して、追加の COVID-19 検査は必要ありません。

– **完全なワクチン接種を受けており、過去に COVID-19 に感染したことがある場合**、出発の平日 8 日前までに、以下の書類を北京 2022 (phs_1@beijing2022.cn) に提出し、審査を受けてください。

– 感染と回復を証明する医療機関、検査機関の証明書（英文）（出来れば感染、回復の日付を記載）。

– CLO から渡される申請書。

– 回復が出発予定日の 30 日以内の場合、回復後、最低 24 時間の間隔をおいて行われた 2 回の COVID-19 (PCR) 検査で陰性であったことを示す検査結果。

– 北京 2022 は、提出された書類を 5 営業日以内に審査し、中国への渡航が可能かどうかを通知します。

– 上記の通り、すべての書類と情報を提供すれば、渡航する資格があります。書類に不備がある場合、北京 2022 は追加情報の提出を要求します。

– 北京 2022 から追加情報の要請があることを考慮して、できるだけ早く書類を提出することが大切です。

– 承認された場合、北京 2022 は申請書に署名と捺印をして返送します。

– 渡航可能な方は、中国へのフライト出発前 96 時間以内（間接渡航の場合は最終便）に、COVID-19 (PCR) 検査を 2 回、別々の日に受けてください。詳細は第 21 頁をご覧ください。

• **完全なワクチン接種を受けておらず、過去に COVID-19 に感染したことがない場合**

– 中国へのフライト出発前 96 時間以内（間接渡航の場合は最終便）に、COVID-19 (PCR) 検査を 2 回、別々の日に受けてください。詳細は第 21 頁をご覧ください。

– 中国へのフライト出発前 72 時間以内（間接渡航の場合は最終便）に、免疫グロブリン (IgM) 抗体検査を受けてください。この IgM 抗体検査は、PCR 検査と同様、中国大使館、領事館が承認した検査機関で受ける必要があります。

ワクチン接種が不十分で、過去に COVID-19 に感染したことがある場合

次の書類を、出発予定日の平日 8 日前までに、北京 2022 (phs_1@beijing2022.cn) に提出し、審査を受けてください。

– 感染と回復を証明する医療機関、検査機関の証明書（英文）（出来れば感染、回復の日付を記載）。

- CLO から渡される申請書。
 - 回復が出発予定日の 30 日以内の場合、回復後、最低 24 時間の間隔をおいて行われた 2 回の COVID-19 (PCR) 検査で陰性であったことを示す検査結果。
 - 北京 2022 は、提出された書類を 5 営業日以内に審査し、中国への渡航が可能かどうかを通知します。
 - 上記の通り、すべての書類と情報を提供すれば、渡航する資格があります。書類に不備がある場合、北京 2022 は追加情報の提出を要求します。
 - 北京 2022 から追加情報の要請があることを考慮して、できるだけ早く書類を提出することが大切です。
 - 承認された場合、北京 2022 は申請書に署名と捺印をして返送します。
 - 渡航可能な方は：
 - 中国へのフライト出発前 96 時間以内（間接渡航の場合は最終便）に、COVID-19 (PCR) 検査を 2 回、別々の日に受けてください。詳細は第 21 頁をご覧ください。
 - 回復が出発予定日の 30 日以内の場合、中国へのフライト出発前 72 時間以内（間接渡航の場合は最終便）に、免疫グロブリン (IgM) 抗体検査を受けてください。この IgM 抗体検査は、PCR 検査と同様、中国大使館、領事館が承認した検査機関で受ける必要があります。
- **完全な予防接種を受けていないが、上記の基準により中国への渡航が可能な方は、到着後 21 日間の隔離が必要です。**
- **COVID-19 (PCR) 検査のいずれかが陽性であった場合、中国へ渡航しないでください。**
 - 現地のルールに従って、直ちに自己隔離を開始してください。
 - CLO に連絡してください。CLO は、あなたの症状、検査結果、濃厚接触者を記録し、北京 2022 へ情報を提供して、次のステップについて協議の上、合意します。
- **中国当局が中国への渡航に要求する QR コード 2 組の提示が必要です：グリーンヘルス QR コード (Green Health QR Code) と税関健康申告 QR コード (Customs Health Declaration QR Code) 。**
- **グリーンヘルス QR コードを得るには：**
 - 出発後 96 時間以内に受けた 2 回の COVID-19 (PCR) 検査が陰性の場合、下記の必要書類を写真ファイルにして、<https://hrhk.cs.mfa.gov.cn/H5/> にアップロードしてください。
 - 有効なパスポートまたはその他の渡航書類
 - 大会認定証 (PVC または OIAC、PIAC) または北京 2022 年からの招待状付きビザ。

- 中国への出発 72 時間以内に、中国大使館、領事館が承認した検査機関で受けた検査結果証明書
 - IgM 抗体検査（必要だった場合）の検査結果
 - 過去に COVID-19 に感染したことがある場合、北京 2022 が署名、捺印した承認済み申請書
 - 中国大使館、領事館が書類を確認し、中国入国に必要なグリーンヘルス QR コードを電子的に発行します。
- 詳しくは「ウェブサイトとスマートフォンアプリ」 p. 59～64 をご覧ください。

• **税関健康申告 QR コードを得るには**

- 中国到着の最大 24 時間前までに、<https://health.customsapp.com> にて、オンライン税関健康申告書にご記入ください。記入が完了すると、税関健康診断書 QR コードが発行されます。
 - フォームの記入には、座席番号が必要です。航空券の予約時に座席番号をお持ちでない場合は、チェックイン時にご記入いただく必要があります。
- 詳しくは「ウェブサイトとスマートフォンアプリ」 p. 59～64 をご覧ください。

• **グリーンヘルス QR コードや税関健康申告書 QR コードを受け取る際に問題がある場合は、CLO にお尋ねください。**

- 大会中のスクリーニング検査で陽性となった場合、あるいは濃厚接触が確認された場合に備えて、**複合型 COVID-19 の可能性を吟味するために、関連する医療情報（英語の原文と訳文）を持参してください。** 次のようなものがあります。
 - 出発前 96 時間以内に受けた COVID-19 PCR 検査の結果証明書
 - ワクチン接種の状況（接種回数、接種日、ワクチンの種類・銘柄）
 - COVID-19 検査歴（検査結果、検査日、検査タイプ：PCR/抗原/その他）
 - 抗体の有無（抗体検査日、結果、及び該当する場合は、ウイルス標的に関する情報の検査プラットフォーム、力価/定量結果）。
 - 潜在的な濃厚接触者として特定された場合、再検査の優先順位または再検査の要件に影響を与える可能性のある、重症 COVID-19 の既知の危険因子（例えば、WHO の非伝染性疾患リスト [WHO list of non-communicable diseases](#)）を含む関連病歴。

身体的な関わり合いを最小限にとどめる

- **中国に渡航する前の 14 日間は、身体的な関わり合いは最小限にとどめてください。** ワクチンを接種していても、陽性となり感染する可能性があるため、これは適用されます。
 - 自宅にいる場合、特に屋内では、他人との接触を肉親と直属のトレーニングパートナーやチームに限定してください。
 - 移動中、競技中に、接触するのは直属のトレーニングパートナー、チーム、競技に絶対

に必要な人に限定してください。

– それより接触の範囲を広げると、中国への出発前や到着時に陽性と判定され、大会から除外されるリスクが高まります。

– 社会的な理由による旅行（トレーニングや競技のためでない）は推奨されていません。

• 可能な限り、**不必要な接触、密閉空間や密集場所を避けてください。**

• ルームメイト、コーチ、理学療法士、チームのメンバーなど、中国滞在中に**定期的**に一緒に過ごす人のリストを作成することをお勧めします（フォーマットは CLO と合意のこと）。

– そのリストを CLO と共有してください。必要であれば、CLO が接触歴追跡に利用できます。

衛生に気をつけましょう

• **衛生的な習慣を守ってください**

常時マスク着用、定期的な手洗い、手指消毒剤の使用など。

• **Make sure you have access to enough masks to last throughout your stay in China 中国滞在中に必要なマスクの数を確保してください。** NOC、NPC が責任を持ってマスクを提供することになっています*。

大会期間を通してマスクを受け取れることを、CLO に確認してください。

– 承認されたマスクの種類については、第 14 頁の「原則（Principles）」を参照してください。

– 製造メーカーの推奨事項と衛生証明を確認してください。

– マスクは湿ったらすぐに交換する必要があります

– フェイスマスク銘柄に関する「公認マーク（Authorised Identifications）」についてのガイドラインもお読みください。

*北京 2022 は、必要に応じて、NOC、NPC に対し、マスク入手のサポートを提供します。詳細については、北京 2022 にお問い合わせください。

• **車椅子やその他の移動器具を使用していて、他の人（例えば、旅行中の航空会社のスタッフ）に扱われる可能性がある場合、定期的にその器具の表面を消毒してください。**

中国への入国

入国の際、中国政府の官僚の指示に注意し、空港での規則に従いながら旅を続ける事が重要となります。

滞在中は、身体的な距離を測りながら衛生面の質を高く保つことが必要不可欠です。

• 中国入国の際の自身の COVID-19 関連連絡官（以下 CLO）からの支持

—入国の際に COVID-19 が陽性結果である或いは如何なる症状を経験した場合、即専属の CLO に電話をすること

検査、追跡調査、隔離

北京首都国際空港到着後、税関職員が機体に乗員し、飛行中に COVID-19 症状を報告した飛行乗務員及び乗客に事情を聞きます。そこからは、地上管理職員が降機の案内をします

・機体を離れた後は、税関職員が税関健康状態申告書の内容確認をし体温の測定を行います

—以下の提示を用意すること：

—税関健康状態申告書の QR コード

—有効なパスポートとその他の旅行関連書類

—最初の体温測定は到着時に赤外線体温計を利用した上で行われます：体温が高い場合（37.3°C もしくはそれ以上）、短い間を置いた上で水銀体温計を利用し再度測定が行われます

—水銀体温計測定で高い温度が再度感知されたもしくはその他にも COVID-19 の症状がある場合は健康診断が行われます。税関職員が空港ターミナル内の COVID-19 検査の行われる別の場所へと案内をしてくれます。

症状によっては、指定の交通手段を用いて指定の病院へと移動されます

・税関健康状態申告書と体温が正常である場合、COVID-19 (PCR)検査を受けるよう指示されます

—訓練された税関職員が喉そして鼻から綿棒を用いてサンプルを採取し、その解析と共に診断が行われます

・サンプルを提供した後は、空港内の有効性確認カウンターで OIAC/PIAC をライセンス認証する前に入国審査を完了させてください

—以下の提示を用意すること：

—有効なパスポートとその他の旅行関連書類

—ゲーム認可証書 (PVC) 或いは北京 2022 からの招待状と共有の有効ビザ

—到着証カード (乗機中か到着の際に提供されます)

・到着プロセスは可能な限り入念且つ効率良く行われ、ご自身の空港内移動時間を延ばさないよう用意されました

・ご自身の COVID-19 検査結果は可能な限り効率良くプロセスされます (最長 6 時間)。

移動先に案内された後、指定の部屋で結果を待つこととなります

—移動中の距離間隔を旅行者間で保つために対応処置が用意されております

・ **検査結果が不透明或いは陽性である場合**、ご自身の専属 CLO に電話でご通知下さい。
確証目的の COVID-19 (PCR)検査がご自身に指定された隔離室で行われ、鼻中サンプルのみを用いて行われます。更なる詳細は35頁上の「**確証検査**」をお読み下さい

・ **確証 COVID-19 (PCR)検査が陽性である場合**、ご自身の CLO/チーム医師及び現地在中医療スタッフがご自身が症候性か無症候性かを確認し隔離の場所の選択を行います。それからは専用の移動交通車両り隔離施設又は病院へ移動され、隔離及び又は治療を中国医療関連役員の指示の下受けることとなります。詳しくは36頁をご覧ください

—CLO が症状・検査結果を記録、濃厚接触者の確認、更には北京2022とのフォローアップ処置の合意の手伝いをしてくれます

・ **同じ便に乗機していた陽性結果確認済である乗客の濃厚接触者***であると確認された場合、ご自身の CLO が到着24時間以内に通知をくれ、検査を受けることを含めフォローアップ処置について説明をしてくれます

—濃厚接触者とは以下のシナリオに当てはまる同便の乗客を表します：

—感染者と同じ列もしくは2列前までか2列後ろまでに座っていた場合

—感染者と直接的な身体的接触があった場合

—感染者と面と向かった接触が1メートル以内15分以上有り、KN95/N95/FFP2 マスクを装着していなかった場合（もしくはその他のご自身お住まいの国家/地区で認可された保護装具基準がこれら3つと同等レベルのマスク）

*接触者に関連するプロセスの更なる情報は37-38頁の「**接近接触者**」にてお読み下さい

ゲームにて

距離間隔を保つことと質の高い衛生管理は、中国滞在期間を通してご自身の健康と安全そしてゲーム参加者及び中国の方々のために必要不可欠となります。これらの守るべき規則は続く複数の頁において説明してあり、12-14頁においても原則としてまとめてあります。これらの規則は北京2022において従順性の保証のために監視が行われます。

・ **ゲームにおけるご自身の CLO からの支持**

—CLO が日毎の健康管理結果のアップロードをサポートしてくれることが可能です

—CLO が日毎の検査において正しい順序を追えるよう確認のサポートをしてくれます。スクリーニング検査結果が不透明もしくは陽性である場合はご自身に通知をくれます

—万が一検査結果が陽性と確認された或いは COVID-19 の症状が一つでも症候性が有る場合、直ちにご自身の CLO にお知らせ下さい。その後は CLO がフォローアップ処置につい

て説明をしてくれます

—このプレイブックにおいて述べられた規則が不透明である場合、ご自身の CLO にご質問下さい

距離間隔を保つため、総合の認定数は減数され、会場場所運営計画及び会場場所へのアクセスも運営目的に限られる形で限定されました。

主催者側の条件に並んで、毎日ご自身の健康を積極的に管理し報告しなければなりません。

決められた総合的スクリーニング検査規則は化学的そして専門的アドバイスに基づいたものです。検査は感染を最小限に留めるための非常に重要な側面であり、一般的なスクリーニング、陽性例の濃厚接触者として確認された方の検査、そして COVID-19 の症状を体験している方の診断、のために用いられます。

・大会継続性とスポーツ別特定の対応処置

—COVID-19 の陽性が認められた場合にもイベント継続を可能とするための原則が敷かれていることを保証するために、今現在 IOC、IPC、IFs、そして北京 2022 の間で合同規則が組み込まれています。この合同規則の中にはゲームを通しての判断基準やメダル割り当てにおける統一性のある法則が含まれ、大会フォーマットにおける各特定性も検討されます。この他の追加的なスポーツ別特定の対応処置の詳細は 12 月の「チームリーダーズガイド」と「テクニカルオフィシャルズガイド」において閲覧が可能となります

・積極的にご自身の健康を毎日管理し（体温やその他の COVID-19 症状）

My 2022 アプリ内の HMS にて結果をご報告下さい。更なる情報は 59-64 頁の「ウェブサイトとスマートフォンにおけるアプリケーション」をご覧ください

—一日毎の健康管理のために専用の体温計を持参することを推奨し、更には毎日同じ時間に管理・測定することにより一貫性を保証することをお勧めします

・体温測定は赤外線体温計で測られ、訓練及び大会場所そしてオリンピック及びパラリンピック村への入場前に行われます

—体温が 37.3°C 或いはそれ以上である場合、短い間を置いた後に水銀体温計で再度測定が行われます

—再度測定でも高い体温が感知された場合、会場内における指定の部屋に医療スタッフからの健康診断及び診察を受けるために案内されます

—入場許可の条件は以下となります：

—その他の症状が一切無い場合

—現地在中医療スタッフとご自身のチームドクターが自身が訓練／競争／役目を自身及びその他関連者の健康を害さずに行えると合同で同意する場合

—ご自身が自身の健康状況とその他の一切の可能な影響を把握している場合
—濃厚接触者に追加必要のある対応処置をその他の症状が症候性無く自身の体温が正常に戻るまで継続して行い、高い体温が記録された後の再度施行サンプルにおける COVID-19 (PCR)検査にて陰性結果をもらった場合。更なる情報は 38 頁にて濃厚接触者のための追加対応処置、をご覧ください

—高い体温測定結果が続く又はその他の症状が現れた場合、ご自身のチームドクターとの意見交換の後指定の病院に移動される可能性があります。又、タイミングに限らずご自身で指定の病院への移動をリクエストすることもできます

ゲームにて

・その他の COVID-19 の症状が症候性有る場合：

—ご自身の CLO から更なる指示を得るために直ちにご連絡下さい

—医療スタッフによる健康診断と診察のために村／宿泊地の場における指定の部屋に移動させられます

[WHO 症状ガイドライン](#)を閲覧する

診断検査

・ **出発前と中国到着後の検査に加え毎日 COVID-19 の検査を行う事により、確認のされていない感染が起こりうる陽性例のリスクを最少化します**

—医療スタッフがオリンピック及びパラリンピック村、そしてその他の宿泊地を含む特定の場所におけるサンプル採取地において喉の綿棒サンプルを採取します

—全てのサンプル採取地が朝の 6 時から夜の 11 時までの運営を行います

—サンプル採取地の場所と運営時間の総合リストが今現在用意されており、完了次第ご自身の NOC/NPC 及び CLO と共有される予定です

—原則としてはご自身のオリンピック及びパラリンピック村もしくは宿泊地におけるサンプル採取地をご利用下さい。サンプル採取地を運営時間内に訪ねるにはご予約の必要はありません。検査を受けるにはご自身の訓練や競争に阻みの無い時間に結果を受けられるようご確認ください

—競争、訓練、或いはその他の関連活動により通常の運営時間外に検査する必要性が有る場合、ご自身の CLO に事前に通知をしサンプルを採取してもらうための代替の運営場所及び又は時間を提供してもらえようして下さい

・結果の受理

—検査結果が不透明もしくは陽性である場合は通知が届いた後、CLO がご自身に連絡をくれます

—朝 6 時からお昼 12 時までに受けられた検査の通知は夜 8 時に届きます。お昼 12 時から夜 11 時までに受けられた検査の通知は次の朝 6 時に届きます

—指定の時間内に CLO からの連絡が無い場合、検査結果が陰性で有ったこととなります

確証検査

・検査結果が不透明或いは陽性である場合、確証のための鼻中サンプル COVID-19 (PCR) 検査を受けることが必要となります。各会場／宿泊地において専属の COVID-19 スタッフが検査を行ってくれます

—既に症候性の有る場合は、COVID-19 スタッフとご自身の CLO にご連絡下さい。指定の病院における確証検査に専用の移動交通車両動出来るように手配が行われます。施設で指示の通り結果をお待ち下さい。結果の受理までは最長で5時間掛かります

—症状が無症候である場合、直ちに自身の宿泊地或いは最寄りの会場（ご自身の CLO の指定に従った上で）にて隔離室へ行き確証検査を受けて下さい。必要である場合は、専用の交通車両が手配されます。施設にて指示の通り結果をお待ち下さい。結果の受理までは最長5時間が掛かります

—現地在中の医療スタッフが結果内容を知らせてくれます。ご自身の CLO にも通知が行きます。陽性が確認された場合の隔離を含めフォローアップ処置についての説明も受けることとなります

—ご自身の CLO／チームドクターと共に、現地在中医療スタッフがご自身が症候性であるか無症候性であるか、そして隔離が何処で行われるか、についての確認をしてくれます

・陽性検査結果が確証された場合：

—競争／役目の継続は不可能となります

—症候性の有る場合、指定の病院で治療を受けるための入院が要求されます

—無症候性で有る場合、隔離施設での滞在が要求されます

—専用の交通車両での移動が手配されます

隔離

病院／隔離施設

—健康状態を管理する施設にて英語を話せるスタッフが在中することとなります

—様々な食懸念に対応できるよう、適切な幅のご飯の選択肢が毎日3回の食事を通して提供されます

—無料の Wi-Fi がアクセス可能となっており、ご自身の CLO、そしてチームとの連絡が取り易いよう用意がされています

—ご自身の CLO、監督（未成年者の場合）、そしてチームが施設のアクセスをでき、アイテムの手渡し、ケース・バイ・ケースでのサポート提供（例；安否・安全性チェック）、医療スタッフへの患者の特定のケアの必要性などの知らせ、等々が、北京2022において決められた時間帯であれば可能となります

—アクセスのしやすい部屋の数々が有り、必要な際には経験の豊富な在中スタッフが日頃のケアの手伝いをしてくれます（食事、お手洗い、衣服の着替え、お風呂、等々）

- スポーツ選手で訓練器具が室内に必要な場合、可能であれば提供が行われます
- 新鮮な空気へのアクセス（空いた窓を通して）はありますが、外出は許されません
- 部屋は約25平方メートルとなっております
- 精神科のサポートもご用意しております

・隔離終了後の解放

—以下の中国規定の特定の解放ガイドラインに従う形で隔離終了後に解放することとなります：

- 病院から退院できるタイミングは：
- 体温が3日間継続して正常に戻った場合；
- 呼吸器系の症状が著しく改善した場合；
- 肺のビジュアルスクリーニング結果が著しく改善した場合；
- 最低24時間を挟んだサンプル採取による COVID-19 (PCR)検査の結果が2回連続して陰性である場合；そして
- その他の COVID-19 症状が一切無い場合
- 隔離施設においては：
- 無症候性である場合、最後の検査の24時間後に毎日の検査が開始されます
- 最低24時間を挟んだ2つのサンプル採取における COVID-19 (PCR)検査が2回連続して陰性でありその他の COVID-19 症状が一切無い場合に解放されることとなります
- 回復後、ゲーム時における役目に再度就きたい場合は、濃厚接触者に当てはまる追加対応処置を生活形態に取り入れることを要求されます。更なる詳細は38頁をご覧ください
- 無症候性の参加者で持続して COVID-19 (PCR)検査の結果が陽性である場合は MEP によりフォローアップ処置の検討が行われます

濃厚接触者

濃厚接触者とは COVID-19 の検査結果が陽性と確認された感染者と一定の時間に渡り（15分間もしくはそれ以上）接触があった方のことであり、それが1メートル以内のフェイスマスク着用無しの上でのものであり、感染者において症状が現れた前の2日間以内か或いは検査した後隔離を始めた前の2日間以内の場合を指します

- 陽性検査結果確認済みである場合、濃厚接触者を特定するために：
- CLOの方々が症状の現れた前の2日間以内（症候性のある場合）或いはサンプルを採取した前の2日間以内（無症候性である場合）のご自身の行った活動兼訪ねた先の確認を取ってくれます
- 中国医療関連役員の方々が各会場場所における各公共医療・安全チームと共に協力しながら濃厚接触者の特定を行います。その際、ご自身に関する以下のキーポイント詳細が特定されます：
- SARS-CoV-2（コビド-19の原因となるウイルス）の一切の検査及び結果歴

- 症状が最初に現れた日付（該当する場合）
- コビドー19検査の日付
- 感染原因の可能性のある感染者の特定
- 潜在濃厚接触者の一覧
- 感染があり隔離していなかった時間内の活動／居場所
- 必要性がある場合は MEP の意見が求められます
- ご自身の CLO、中国医療関連役員の方々（地方自治体の医療役員を含む）、そして北京 2022 が各特定場所の消毒などのその後の処置についての決断を行います
- 濃厚接触者の確認プロセスは可能な限り効率良く行われますが、コビドー19の検査結果が陽性である方との接近があったとご自身で知っている場合はプロセスが完了するまで自ら他の方々との交流を限定するようにしましょう
- 濃厚接触者であるとの確認が無かった場合、それ以上の制約は無しにご自身の役目に戻ることが可能となります
- 濃厚接触者であるとの確認が有った場合、ご自身の CLO が 24 時間以内に連絡を入れ、検査を含めたフォローアップ処置についての説明をしてくれます

濃厚接触者であるとの確認が有り後日に大会を控えている場合、以下の条件を満たしている限り参加が可能となります：

- ご自身専属の部屋での隔離
- 会場と隔離所との間を NOC/NPC 指定の専用交通車両で移動すること。ご自身の NOC/NPC が充分である交通車両を持たない場合、北京 2022 がこのサービスを提供します
- 食事は独りで済ませること
- フェイスマスクを必ず着用すること（訓練／競争、飲食、或いは独りの時を除く）
- 役目を務めるか生活に関わるタスク支援（例：日頃のタスク・ヘルプ／ケアを受ける）でなければ他人との身体的接触は避ける
- 他の方々から 2 メートルの距離を保つ
- 体温を日毎 2 回測定し HMS 上にて 2 回の内の高い数値を入力する
- コビドー19（PCR）検査を施行する医療役員スタッフによる毎日の質問に答える
- コビドー19（PCR）検査は、7 日間は継続して 12 時間毎に行う
- コビドー19（PCR）検査は医療スタッフがご自身の部屋まで来て行ってくれます。鼻から綿棒でサンプルを採取するか、或いは医学的理由でそれが可能でない場合は喉からサンプルを採取します
- 7 日間全ての検査結果が陰性である場合、検査頻度は通常の数に戻ります
- 競争時は 6 時間前にコビドー19（PCR）検査を受けましょう
- 検査のタイミングは 12 時間毎に行われているスクリーニング検査を考慮した上で決められます。一日の中で 2 回以上検査する必要性はありません

—訓練と競争のスケジュールも考慮する内容の内に入ります。訓練或いは競争の 6 時間前に検査を受けることが睡眠を含め準備の妨げになる場合、別の時間帯が当て付けられることとなります。この懸念がある場合はご自身の CLO にご連絡下さい

—結果が陰性である場合は参加が可能となります

—競争前訓練と競争期間中の訓練セッションにおける参加は、検査結果が陰性である限り可能となります

—インドア（室内）フィットネス施設における訓練は許可されません。北京 2022 はご自身の NOC/NPC をスポーツ選手の部屋にて可能な限りフィットネス器具を提供し、サポートをします。このサポートができない場合は、訓練のための専用スペースが提供されません

—このプロセスは 14 日間施行されます（或いはご自身の中国出発時まで）

身体的接触の最少化

・ **他人との接触を最小限に留める。** ハグ、ハイタッチ、握手などの身体的接触を最少化する

・ **他のゲーム参加者から最低 2 メートルの距離を置く**

—競争区域や訓練所においてなど、他の選手や関係者からの距離が 2 メートル以下である場合もたまに有るかも知れません。北京 2022、IOC、IPC、そして IFs はこれに関し必要である対応処置を開催にて取り入れます。詳しい情報は、55 – 58 頁における「総合的会場計画及び運営原則」をご覧ください

・ **密室や人混みを可能な限り避けること**

—如何なる場所でも必要以上の滞在を避けること。エレベーターなどの密室では会話を控えること

・ **追加のサポートが必要である方においては、2 メートル距離間隔規則が免除されます**

—他の関係者にサポート提供する場合は必ずマスクを着用して下さい

—サポートを提供後は、両手を消毒しその他の関係者達から身体的距離を 2 メートル以上保つ態勢にお戻り下さい

—サポート提供に関わらず、可能な限りは身体的接触の最少化にお努め下さい

移動

北京 2022 による交通車両提供はオリンピックウィンターゲームズの開会式 14 日前からパラリンピックウィンターゲームズの閉会式 3 日後までとなります（2022 年 1 月 21 日から 2022 年 3 月 16 日まで）

—到着と出発においては専用のアスリート・トランスポート（TA）サービスが用意され 3 つの競争ゾーンに渡り移動を可能にしてくれます

—オリンピック及びパラリンピック村における指定の下車地点（国際放映センター（IBC）、

ジャンジャーコウ放映センター（ZBC）、ライツ・ホールディング放映社（RHB）テレビスタジオ、テレビタワー（該当する場合）への行き来は専用の RHB と NOC/NPC の交通車両が移動手段となります

・公共交通手段（一般のシティータクシーを含む）の利用は許可されません。専用のゲーム交通手段でのみ移動が可能となります。また、規定されたゾーンの外にある目的地に出掛けることも許可されません

・ゲーム参加者は基本的に北京 2022 指定の交通車両のみ利用ができ、例外は一時入場の放映車両などの特定車両となります

・特定ゲーム指定の車両はゲーム関連会場にのみ向かうことができます（即ち認定済目的地一覧に記載のある場所）

・全ての交通手段車両が運転手付きとなり提供された認可済の運転手以外は車両を操作することは認められません。運転手の方々についての更なる詳細は、ご自身の NOC/NPC からの提供がある「北京 2022 交通サービス提供規則」をお読み下さい

・ハイスピードレールを含む全ての専用交通車両は、以下の厳しい距離間隔及び衛生実施要綱に基づき運営されます：

—乗客は正しい距離間隔を保つよう指示されます（該当例においては満室度は 50 パーセントを超えてはなりません）

—運転手と乗客の間には仕切り壁が設置されます

—車両はヒーター／エアコンを利用し常に通気性のある状態となります

—移動中を通して運転手も乗客もフェイスマスクを着用しなければなりません

・ハイスピードレール（HSR）

—開会式と閉会式への移動のみ、HSR の利用が可能となります（宿泊地による）。専用の出入口を利用し、専用の待ち位置と客車をご利用下さい

・車両アクセス及び又は駐車許可（VAPPs）

—全ての車両が VAPP を必ず表示していなければなりません

—割り当てられた VAPPs は同じ組織の関係者による所有と利用のある車両間のみ使い分けが許されます

—別途購入となるレートカード VAPPs はレートカード車両のみにご利用ができます

・ゲームタクシー

—北京 2022 は 1 月 4 日から 3 月 16 日の間、競争区域全 3 つにおいて 24 時間営業の乗客払いであるゲームタクシーサービスを提供します

—ゲームタクシーは直利用のサービスとしてかご予約頂くチャーターサービスとしてのご利用が頂けます。ご予約は専用のアプリ*からご登録下さい

—タクシーのチャーターは毎日のご利用が可能です。ご予約は 24 時間以上前の登録と全額の前払いが必要となります

—ゲームタクシーは競争区域間及び北京・延慶間を移動することが可能です

—ゲームタクシーの乗車ゾーンは各会場において、一定の確保された枠外且つ規定された

区域内において設置されます

更なる情報はご自身の NOC/NPC が提供をくれる「北京 2022 交通サービス提供規則」
をご覧ください

*詳しい予約段階はご自身の NOC/NPC により説明が提供されます

オリンピック村・パラリンピック村

・全てのスポーツ選手兼チーム役員がオリンピック及びパラリンピック村内に滞在することを強く推奨いたします。運営理由によりこれが可能でない場合、北京 2022 提携である COVID-19 対応処置従順のホテルに滞在することが要求されます

・両村群は以下の日付に開所されます：

—オリンピック村群：

ソフトオープニング：1月23日、朝8時

オフィシャルオープニング：1月27日、朝8時

・ソフトオープニング期間中各村内に許可される最大の役員数は、NOC/NPC の代表数と同類のものとなります；オフィシャルオープニング以降は、全スポーツ選手兼 NOC/NPC の方々が村群をアクセスできることとなります

・閉会式に参加する場合を除き、最終競争終了後 48 時間以内に中国を離れることをお勧めします

・オリンピック村・パラリンピック村のアクセスは以下の通り制限されます：

—村のアクセス権許可の認められたゲーム参加者のみアクセスが許されます

—アクセスは運営理由を持つ関係者のみに認められ、北京 2022 と IOC/IPC による事前の同意に基づくこととなります

・体温測定は各村の入り口にて実施されます：含まれるのは、チームプロセッシングセンター、メインエントランス、交通サービスモール、ワークフォースエントランス、そしてロジスティクスエントランス、となります。体温測定に関する更なる詳細は、33 頁をご覧ください

・可能な限り、ご自身の NOC/NPC に割り当てられたゾーン内に滞在を制限して下さい。必要不可欠でない限り、他の代表団体のブロック内には行かないようお願いいたします

・プラザ、フィットネスセンター、そしてエンターテイメントセンターを含む室内公共エリアにおける人混み度合いはフロントデスクにてリアルタイム更新で知ることができます

・セルフサービスの洗濯所、フィットネスセンター、そして矯正具・人工装具・車椅子の修理センターは収容制限が守られることを保証するための管理が行われます

—これらエリア内に入る際、スタッフの指示に従い、器具及び施設の消毒を使用前と使用後に行ってください

・公共の場と寝室は定期的に掃除・消毒が行われます

—歯ブラシ、歯磨き粉、石鹸、シャワージェル、スリッパ、櫛などの個人的なアイテムの寝室内提供は行われません

- ・各村において距離間隔、手の消毒、フェイスマスク着用などを例とした対応処置に関する標識が設置されます
- ・各換気システムは地方の COVID-19 規制基準を満たすものとなります
- ・手の消毒液は、各サービスエリアの入り口そして舞台裏エリアでのご利用が可能です。手を洗うための洗面台はトイレにてご利用下さい
- ・濃厚接触者として確認された関係者が一人部屋に滞在できるよう、各 NOC/NPC に指定のアパートが提供され、必要である方にはその他のアクセス可能な部屋も用意がされます
- ・滞在者と主催者側スタッフの間におけるプリントアイテムのやり取りを避けられるよう、プロセスはなるべくデジタル仕様で行われます
- ・ダイニングホールのテーブル間、そして主催者側スタッフとのやり取りを行う机の間全てにおいて仕切り壁が設置されます
- ・ラウンジやリクリエーションスペースなどを例にしたダイニングホール及び全ての座席を有するエリアにおいて座席収容量が制限されます
- ・出入りの量が多いエリアにおいては掃除・消毒の実行が強化され、冷蔵庫の取っ手、ドアの取っ手、エレベーターボタンや仕切り壁を含む接触表面の消毒が行われます

宿泊

- ・村での滞在が可能でない場合、規定地区内の北京 2022 提携ホテルにて宿泊されることとなります
- 一更なる詳細は「出資者のための宿泊ガイド」と「ゲーム出資者のための提携ホテルへの移動ガイド」におけるオリンピック及び又はパラリンピックの宿泊規則を閲覧下さい
- ・該当する衛生処置を守り COVID-19 管理プロトコルに従った上で、ホテルの指定エリア内を自由移動することができます
- ・指定目的地一覧に記載された場所であるゲーム関連活動のためのみホテルを離れることが可能となります
- ・ホテルは原則として 2 日毎か或いはリクエストに応じて定期ハウスキーピングを提供します
- ・ジム、スイミングプール、及び会議室などのホテル内施設は電話予約によるアクセス可能となります
- ・ホテルでのお食事はア・ラ・カルテ、ブッフェ、又はセットのお食事オプションとなっており価格も異なるレベルで提供されます。ヴェニュー内でお食事をされるか、お部屋へ持って行くか、或いはルームサービスを電話リクエストされるか、お選びになることが可能です。レストランは規定の時間帯の営業となります；ルームサービスは 24 時間利用可
- ・ホテル敷地内にはスナック、お飲み物、アルコール、日用品やフェイスマスクを販売するコンビニエンスストアもございます
- ・オンデマンドのサービスチームによるご用事やお買い物のお手伝いを含む緊急なリクエストへの対応もご用意しております

- ・お支払いはビザカードか現金（中国元—RMB）をお受け取りしております

各会場にて

・認定済である権利に基づき特定の会場へのアクセスが許可されます。会場は規定の囲まれた区域内での運営となります。更なる詳細は、「総合的会場計画及び運営原則」の 5 5 – 5 8 頁をご覧ください

・開会式兼閉会式及び祝勝式においてはマスク着用、距離間隔、スペースの消毒などの指示を含む追加対応処置が施されます。詳しい情報は、ゲーム開始前にご自身の NOC/NPC に提供が行われます

・チケットに関して

—OIAC/PIAC を用いてアクセスの許されている会場内のアスリートスタンドにおいては、同種スポーツ選手相席（SDAs）が可能となります

—オリンピックゲーム期間中の異種スポーツ選手（DDAs）のためのチケットに関する情報は以下となります：

—インドアセッションの場合、チケット数（実数は今後決定の予定）は非常に限られます。ご自身の NOC を通してセッションの 2 日前から応募が可能となります

—アウトドアセッションの場合、ご自身の OIAC に記載されたオープンヴェニュー（OPN）コードに沿ってイベントアクセスが可能となります

—パラリンピックゲーム期間中は、DDAs の方たちはインドア、アウトドア両セッションにおいてチケットが必要となります。チケット数（実数は今後決定の予定）は限られたものとなります；ご自身の NPC を通してセッションの 2 日前からの応募が可能となります

—オリンピック／パラリンピック村からは、TA シャトルを利用した上で会場へ移動することができます。その際、競争選手の方々が優先されます

・各競争会場、及び開会式兼閉会式会場にて医療ステーションが設置されます。必要に応じて応急処置と救急車による病院への移動が提供されます

・アンチ・ドーピング処置は国際基準、健康・安全対策、そして WADA ガイドラインに沿って施され、オリンピックゲーム国際検査機関及びパラリンピックゲーム IPC の管理の下で行われます

衛生管理に気を付けよう

・フェイスマスクは必ず着用して下さい（「原則」1 4 頁を参照）。例外は訓練、競争、飲食、睡眠、独りの時或いは指定ロケーション内でのインタビュー、スタンドアップ及びライブプレゼンテーションの間となります（その他関係者からの 2 メートル距離が保証されなければなりません）

—マスクを着用する・取り外す前後には手を洗い、目、鼻、口に触れるのは避けましょう。

可能であれば、最低 20 秒間石鹸と温水を利用した上で手を洗いましょう。その他の時は手の消毒液を使いましょう

ー湿気を含み始めたら直ぐにマスクを新しい物に換えましょう

ーフェイスシールドはマスクの代替えとして許可されません。これらは目の部位の感染を防ぐ目的にのみご利用下さい

ー医学的理由でマスクを着用できない場合、ご自身の CLO に連絡を入れフェイスマスク着用免除の応募リクエストをしましょう。フェイスシールドの着用が要求され、シールド表面に貼るための指定のシールが提供されます

・口の動き、はっきりとした音及び又は顔の表情による会話の読み取りに頼る方とお話しをするもしくはその方のアシストをする際、**一時的にマスクを外すことが許されます**。可能な限り最低 2 メートルの距離間隔を置き、マスクを着用できるタイミングで装着し戻しましょう

・手は**頻繁にそして満遍なく**、最低 20 秒を用いて洗いましょう。理想としては石鹸に温水で手洗いを行いましょう。それ以外の場合は、手の消毒液をご使用下さい

・叫び声、声に出した応援、や歌うことは避けましょうーサポートとお祝いは拍手により表示しましょう

・**部屋は定期的に換気**をしましょう

・可能な限り**アイテムの共用は避け**ましょう。他人の使用したアイテムは必ず消毒をしましょう

・**特定のパラリンピックスポーツによっては**、競争パートナーやコーチが視力障害のある選手達と競争中にコミュニケーションを取る際、大声でのやり取りが非常に重要となります。それらの特定の状況においては、マスクを着用し距離間隔を保った上で、競争パートナー同士そしてコーチが大声を出すのが許可されます

・他の関係者（例えば運転手の方など）による扱いの可能性のある**車椅子或いはその他の移動支援機器**をご利用される場合、表面を定期的に消毒して下さい

中国住民

規定の囲まれた区域内に入場する中国住民の方々は、ゲームでの役目を始める 14 日前には適切なメンタリティーを身に付けましょう

・**ゲームでの役目が始まる前の 14 日間、身体的接触は極力最少化**しましょう。ワクチン接種後の方でも陽性検査結果が出て病気を感染させる可能性がありますので、気を付けましょう

ー在宅中である場合、特に室内では他の方との接触は家族と直属のチームに制限しましょう

ーこれ以上の幅の広い人との接触はゲームでの役目が始まる前に陽性結果が出る危険性を高め、ゲームから除外される可能性を起こします

— 社交理由での移動（即ち仕事外での）はお勧めできません

- ・ 可能な限り、**必要の無い接触や囲まれたスペース、人混みは避けましょう**
- ・ ゲーム役目開始前の 96 時間以内である別々の 2 つの日付において **2 つの COVID-19 (PCR)検査を受けて下さい**（最低 24 時間の間をお開け下さい）
- ・ **ゲーム役目開始の最低 14 日前にはワクチン接種を完了させて下さい**
- ・ 中国政府免疫規定による該当がある場合、**全ての囲い区域内入場となる北京 2022 主催者側スタッフがコビド-19 ブースターワクチンをゲーム役目開始の最低 14 日前に受けることとなります**

* 2022 年 1 月 4 日前に中国を出国し 21 日間以上の滞在後囲い区域内に入場するゲーム参加者も含む

WHO マスギャザリング COVID-19 リスクアセスメントツール—一般的なイベントの場合

COVID-19のパンデミック時に開催されるマスギャザリングを計画する当局およびイベント主催者のための手引き
バージョン2-2020年7月10日

このリスクアセスメントツールの内容は、COVID-19とマスギャザリングに関するWHOの最新ガイダンスと新しいエビデンスに加えてエンドユーザーからのフィードバックが盛り込まれた最新版となっている。

また、情報のまとめ方と表し方も改良した。具体的には、「決定木」をツールに組み込み、「リスクコミュニケーション」専用のタブを新たに追加した。拡張ツールには、1. 手引き、2. 決定木、3. リスク評価、4. リスク軽減、5. 決定マトリックス、6. リスクコミュニケーションの6つのタブがある。

バージョン1は、2020年3月20日に「マスギャザリングのリスクアセスメント COVID-19：考慮すべき主要な事柄 (Mass Gathering risk assessment COVID-19: key considerations)」というタイトルで発表した。

マスギャザリングの通常の計画には、マスギャザリングに関連して疾患が蔓延する全体的なリスクを判断するためのリスクアセスメントの実施が含まれる。世界保健機関 (WHO) は、現在のCOVID-19のアウトブレイクを鑑み、マスギャザリングのためのリスクアセスメントツールを考案した。その中には、開催国やマスギャザリングの主催者がCOVID-19の特定のリスクのアセスメントを行う際に使用できるように考案されたリスク評価、リスク軽減、リスクコミュニケーションの戦略も含まれる。

WHOのマスギャザリングのリスクアセスメントツールには、以下の3つの柱がある。

1. リスク評価
2. リスク軽減
3. リスクコミュニケーション

本ツールでは、スコアを自動で算出するため、このExcelスプレッドシートに記入する必要がある (次のタブを参照)。このタブには、イベント主催者の記入用として、全プロセス、リスク評価、リスク軽減の概要を示す決定木が掲載されている。各構成要素の使用方法は、それぞれのタブに記載した。リスク評価とリスク軽減について記入後、それぞれのセクションのExcelスプレッドシートに表示されたスコアを、2つ目のタブ (「2. 決定木」) からアクセスできる決定木、または5つ目のタブ (「5. 決定マトリックス」) から決定マトリックスに入力し、総合リスクスコアを決定する。最後のタブ (「6. リスクコミュニケーション」) では、計画や調査結果をスタッフ、参加者、一般市民に分かりやすく伝えることの重要性について詳述し、イベントのリスクコミュニケーションの戦略に関する考慮点を挙げた。

このリスクアセスメントは、WHOのウェブサイトやスマートフォン用WHO COVID-19アプリのWHO Academyに掲載されている「現在のCOVID-19のアウトブレイク環境におけるマスギャザリングに関する主要計画勧告 (暫定ガイダンス)」 (<https://www.who.int/publications/i/item/key-planning-recommendations-for-mass-gatherings-in-the-context-of-the-current-covid-19-outbreak>) と併せて使用すること。

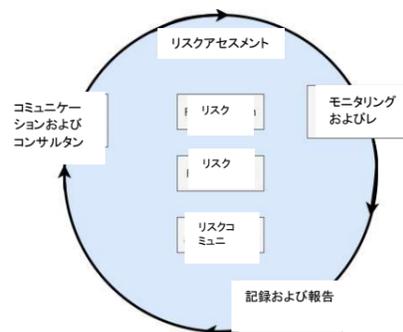
以下のリスク評価とリスク軽減の質問への回答を正確に記入してもらうため、主催者は現在のCOVID-19のアウトブレイクについて知識を備えておく必要である。主催者は、WHOが提供する世界各地のCOVID-19の日々の状況報告を、また各国のCOVID-19の状況報告がある場合はそれについても参照すること。

リスクアセスメントは、現地の公衆衛生当局からの情報を踏まえて実施する必要がある。計画立案の初期段階から、マスギャザリング、リスクアセスメント、疫学、感染症対策CG、リスクコミュニケーションの専門家に携わってもらう必要がある。

総合的なリスクを判断する際は、下記の要素を考慮する。

- COVID-19のアウトブレイクの現段階と判明している感染力
- 参加者の地理的分布と人数、および個々のリスクプロファイルの動勢。
- リスク評価ツール
- 現在実施されている、または実施可能な軽減策

なお、リスクアセスメントについては、下図に示すとおり、循環的なプロセスである点に留意すること。リスクアセスメントの所見に関する記録および報告、一般市民、参加者、イベントスタッフへの重要なメッセージの伝達、リスクアセスメントのモニタリングとレビューをマスギャザリングの計画段階のすべてにおいて、継続的に行う必要がある。図で示すとおり、情報は変化していくものであるため、本ツールは常に更新する必要がある。



COVID-19の感染リスクを軽減することは可能であるが、脅威を完全に排除することはできないものと心得ておくことが重要である。WHOの見解では、蔓延している地域がある国はすべて、人が集まり疾患が拡大する可能性があるマスギャザリングを延期したり控えたりすることを真剣に検討し、物理的な距離を保つこととしている。どのような決定であっても、特にCOVID-19の流行中のマスギャザリングのリスク評価のWHOのツールを使用して裏付けることはできる。

移動に制限がかけられ、そのほかにも全国レベルの措置が定着している場合は、WHOのリスクアセスメントツールは適用しない。ただし、移動制限が解除された後に、マスギャザリングの再開/実施を検討する場合には、「WHO マスギャザリング COVID-19 リスクアセスメントツール」などのリスクアセスメントに基づき決定を下すことが重要である。

© World Health Organization 2020. 一部権利保有。この著作物は、[CC BY-NC-SA 3.0 IGO](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/)のライセンスの下で使用できる。

WHOの参照番号： [WHO/2019-nCoV/Mass_gathering_RAtool/2020.2](https://www.who.int/publications/i/item/WHO-2019-nCoV-Mass_gathering_RAtool-2020.2)

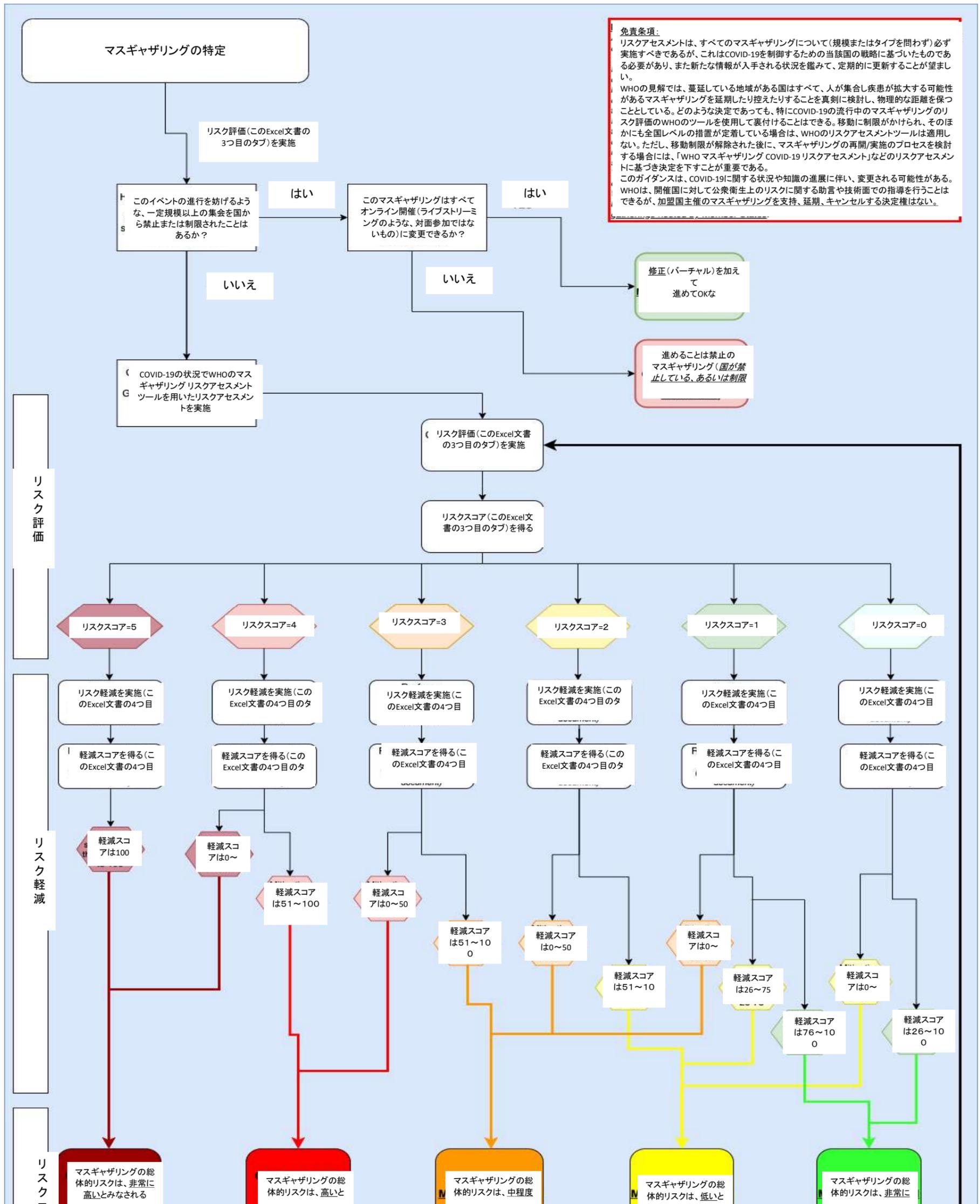
この翻訳は、世界保健機関 (WHO) によって作成されたものではない。

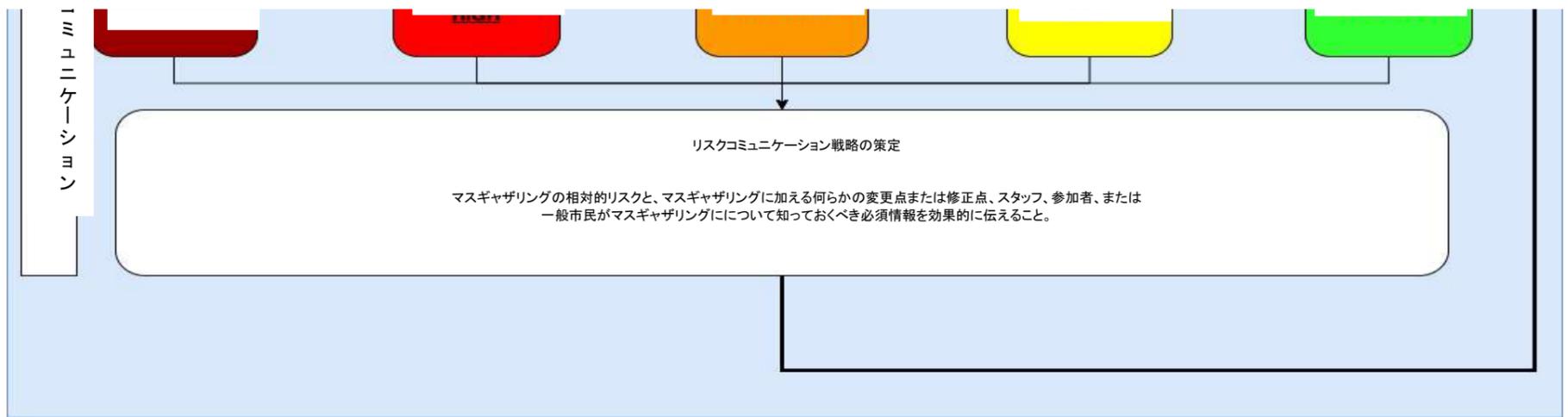
WHOは、本翻訳の内容および正確性について責任を負わない。オリジナルの英語版が拘束力のある原本となる

COVID-19 リスクアセスメントツールのマスギャザリングの決定木

決定木は、マスギャザリングが開催される場合にCOVID-19が蔓延するリスクを判断するプロセスをまとめたものである。イベント主催者は、このプロセスをたどると、リスク評価とリスク軽減を実施して総合スコアを出し、このリスクアセスメントに記入することができる。イベント主催者は、有効なリスクコミュニケーションを採用し、マスギャザリングの計画を確実にスタッフ、参加者、一般市民に行き渡らせる必要がある。タブ3の資料を使うとリスクアセスメントを実施できる。また、タブ4では軽減策が必要なものを評価できる。

リスク評価とリスク軽減に記入してリスクスコアと軽減スコアが算出されると、マスギャザリングに関するCOVID-19の総合リスクスコアを得るための2つのスコアの組み合わせ方がこの決定木に示される。総合リスクスコアは、非常に低い、低い、中程度、高い、非常に高いと定義する。





© World Health Organization 2020. 一部権利保有。この著作物は、[CC BY-NC-SA 3.0 IGO](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/)のライセンスの下で使用できる。

WHOの参照番号： [WHO/2019-nCoV/Mass_gathering_RAtool/2020.2](https://www.who.int/publications/m/item/who-2019-ncov-mass-gathering-rationale-2020-2)

この翻訳は、世界保健機関（WHO）によって作成されたものではない。
WHOは、本翻訳の内容および正確性について責任を負わない。オリジナルの英語版が拘束力のある原本となる

COVID-19のマスクギャザリングのリスク評価

以下の質問は、イベント主催者がマスクギャザリングの計画を立てるうえでCOVID-19に特化して考慮すべき点をチェックできるようになっており、リスクアセスメントに役立つ。これを利用すると、主催者はマスクギャザリングを実施した場合のCOVID-19のリスクを把握および管理しやすくなる。

リスクアセスメントは、アウトブレイクが急激に進展する性質を鑑み、マスクギャザリングの計画期には定期的にレビューと再評価を行い、運用期に移行する直前に更新すること。なお、WHOのウェブサイト上の技術面での最新ガイダンスや状況報告を参照すること。

マスクギャザリングに付随するCOVID-19のリスクアセスメントは、開催国が国内で使用しているCOVID-19のリスクアセスメントとすり合わせて統合しておく必要がある。リスクアセスメントの記入者は、現地の公衆衛生当局からの情報を取り入れ、WHOの技術面での最新ガイダンスを参照し、疫学的状況の最新の評価になっていることを確認する必要がある。

このリスクアセスメントの実施者は、リスク軽減について記入する次の段階に進む前に、以下の各質問に「はい」または「いいえ」で回答し、リスクスコアの合計を出しておくこと。

リスク評価

以下の質問に「はい」または「いいえ」でお答えください	
マスクギャザリングにCOVID-19がもたらすリスクはあるか	はい いいえ
マスクギャザリングに もともと備わるリスク	イベントを行う場所は、WHOが定義する市中感染（地域内での伝染よりも大規模なアウトブレイク）が起きている開催国内か？
	そのイベントには、市中感染が起きている国々からの国際的な参加者がいることで、開催国にCOVID-19感染者が入国するリスクは高まるか？
	そのイベントには、重症化リスクの高い参加者（例：60歳以上の人、基礎疾患がある人）の人数はかなり多くなる予定か？
	イベントは主に屋内で行われる予定か、または人々が長時間にわたり（15分を超える）、互いに密接に（距離1m未満）過ごす予定か？
	マスクギャザリングに関連してリスクのある行動（例：過度の飲酒、違法物質の使用、性的行為など）をとる風潮はあるか、あるいは健康や安全のための予防対策に反するとして当然懸念されるような事柄はあるか？
イベントの修正	マスクギャザリングをバーチャルでの開催に修正することは可能か？
	国際的に蔓延するリスクを抑えるために、国外からの参加者を入れないようにマスクギャザリングを修正することは可能か？
	リスクの高い人（例：60歳以上の人、基礎疾患がある人）が参加しないようにマスクギャザリングを修正することは可能か？
	人との密接な接触に制限をかけ、さらに屋外で開催するようにマスクギャザリングを修正することは可能か？
COVID-19 リスクアセスメントスコアの合計	0

© World Health Organization 2020. 一部権利保有。この著作物は、[CC BY-NC-SA 3.0 IGO](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/)のライセンスの下で使用できる。

WHOの参照番号： [WHO/2019-nCoV/Mass_gathering_RAtool/2020.2](https://www.who.int/publications/m/item/mass-gathering-risk-assessment-tool-2020-2)

この翻訳は、世界保健機関（WHO）によって作成されたものではない。WHOは、本翻訳の内容および正確性について責任を負わない。オリジナルの英語版が拘束力のある原本となる。

COVID-19のマスクギャザリングのリスク軽減

軽減策（制御策とも言う）では、イベントのCOVID-19の蔓延リスクを抑えるための現在の取り組みや計画の評価を行う。軽減策により、マスクギャザリングがCOVID-19の蔓延を助長する総体的なリスクを抑えることができる。よって、リスク評価を行ってマスクギャザリングに該当するイベントでCOVID-19が伝染し広く蔓延する総体的なリスクを明確に把握したうえで、その策を考慮に入れること。軽減策はリスク評価のスコアと併用すると決定マトリックスに役立ち、それによって、マスクギャザリングに付随するCOVID-19が伝染し広く蔓延する総体的なリスクのリスクのアセスメントにも影響してくる。

以下の質問は、イベント主催者がマスクギャザリングの計画を立てるうえでCOVID-19に特化した軽減策をチェックできるものである。リスク軽減に関する質問は、計画期には定期的にレビューと再評価を行い、マスクギャザリングの計画期に加えた変更点または修正点を考慮して運用期に移行する直前に更新すること。

リスク軽減の担当者は、現地の公衆衛生当局からの情報を取り入れ、WHOの技術面での最新ガイダンスを参照し、疫学的状況の最新の評価になっていることを確認する必要がある。

このリスク軽減の実施者は、各質問に「はい/完了」、「おそらく/進行中」、「いいえ/考慮せず」、または「該当なし」のいずれかで回答し、総合スコアの判定を行う最終段階に進む前に、軽減のスコアの合計をパーセンテージで出しておくこと。

リスク軽減

トピック	主な考慮点	はい/完了 おそらく/進行中 いいえ/考慮せず 該当なし	備考
COVID-19、当該国 の状況、およびマ スクギャザリングの 理解	<p>WHO、米国疾病予防管理センター（United States Centers for Disease Control and Prevention: CDC）、欧州疾病予防管理センター（European Centres for Disease Control and Prevention: ECDC）、国連（UN）、現地の公衆衛生当局の公式ウェブサイトのリソースから得られる、COVID-19のアウトブレイクに関する最新版ガイダンスについての情報は、当該の主催組織や責任者に提供されているか？また、当該の主催組織や責任者は、入手が可能なガイダンス文書に従うよう尽力しているか？</p> <p>主催組織は、WHOまたは現地の公衆衛生当局が提供する 世界各地の現地の日々 の状況報告を把握しているか？</p> <p>主催組織や責任者は、COVID-19のリスクや伝染経路、イベント参加者が実行できる蔓延抑制策、周知のベストプラクティス（呼吸時のエチケットや手指衛生などを含む）、マスクギャザリングに影響を与える可能性のある各国で導入されている渡航制限を把握しているか？</p>		<p>COVID-19に関連する技術面のWHOによるガイダンスはすべて、トピック別および発表日別に以下から閲覧できる： https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/technical-guidance</p> <p>詳細はこちらを参照： https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/situation-reports/</p> <p>詳細はこちらを参照： https://www.who.int/publications/i/item/key-planning-recommendations-for-mass-gatherings-in-the-context-of-the-current-covid-19-outbreak および https://www.who.int/publications/i/item/controlling-the-spread-of-covid-19-at-ground-crossings および https://www.who.int/news-room/articles-detail/updated-who-recommendations-for-international-traffic-in-relation-to-covid-19-outbreak</p>
イベントの緊急時 即応準備と対応計 画	<p>このマスクギャザリング用に考案されたCOVID-19の考慮点を取り入れた医療対応計画はあるか？</p> <p>マスクギャザリング用に考案された医療対応計画に、参加者と医療制度をつなぐ方法に関する情報（例：ホットライン/ヘルプラインの電話番号、主催組織の医療チーム、現地の医療制度）は含まれているか？</p> <p>COVID-19の緊急アウトブレイク対応コーディネーター/チームは職務と責任を定めたマスクギャザリングの組織構造内にあり、アウトブレイクに対する健康の準備と対応の計画を調整する立場にあるか？</p> <p>開催国または主催組織は、WHOおよび/または現地の公衆衛生当局に支援を要請済みか？</p> <p>マスクギャザリングの主催組織は、伝染を防ぐための現場の医療従事者用のPPE（マスク、手袋、ガウン）を入手済みか？</p> <p>伝染の抑止のためのイベント参加者用マスクは主催組織側で調達済みか？</p> <p>主催組織は、伝染を防ぐための手指消毒剤やティッシュを調達し、洗面所のソープ入れを頻繁に交換する計画を立てているか？</p> <p>主催組織は、伝染を防ぐために、洗面所や更衣室で衛生用品（例：ティッシュ、タオル、生理用品）を安全に廃棄できるゴミ箱を調達済みか？</p> <p>主催組織は、すべての入口と会場内の各所に、伝染を防ぐための手指の消毒液や擦式消毒剤を調達済みか？</p> <p>イベント中に体調不良/急性呼吸器感染症の症状がみられる人がいたときのために、自分やほかのイベント参加者の具合が悪くなったときの連絡先とその方法を明確に定めた手順は、集会の参加者用に用意されているか？</p> <p>イベント中に体調不良/急性呼吸器感染症の症状がみられる人がいたときのために、集会の主催組織が開催国の誰に連絡して疑わしい症例の報告をし、疫学的調査を要請する化を示した実施計画書はあるか？</p> <p>イベント中に体調不良/急性呼吸器感染症の症状がみられる人がいたときのために、適切な救急処置サービスやその他の医療サービス、呼吸器症状のある患者に対応するための設備は整っているか？</p> <p>イベント中に体調不良/急性呼吸器感染症の症状がみられる人がいたときのために、現場には隔離室または移動式の隔離ユニットはあるか？</p> <p>イベント中に体調不良/急性呼吸器感染症の症状がみられる人がいたときのために、開催国でCOVID-19感染症患者の処置を行う指定医療機関は決まっているか？</p> <p>イベント中に体調不良/急性呼吸器感染症の症状がみられる人がいたときのために、必要に応じて、極めて重症の急性呼吸器感染症患者を病院に、または開催国から他国に移送させるための研修を受けた専門職が付きそう搬送サービスはあるか？</p> <p>会場を清潔かつ衛生的に保つための清掃スケジュールは立ててあるか？さまざまな表面を（イベント前、イベント中、イベント後）消毒剤で拭くことが推奨される。</p> <p>マスクギャザリングの期間中のほとんどを大勢が静かに過ごすよう徹底するため、座席は指定制か？ 座席指定は、物理的な距離を確保できるようになっているか？（座席が指定制ではない場合は「該当なし」と回答）</p> <p>入口、会場、ルート、現場の医療施設（救急処置ポイント）には、参加者の体温検査を含むスクリーニング法は定められているか？（そのスクリーニング法の内容を備考欄に明記）</p> <p>「渋滞」が生じる可能性のある場所（ゲート、入口、飲食店、トイレなど）で参加者が大勢集まらないように徹底するための適切な対策は講じられているか？</p> <p>開催国は、現地の住民全員のうち、COVID-19が疑われる症例に対し、COVID-19のラボ診断検査を実施しているか？（「はい」の場合、その国が使用しているCOVID-19の診断法のタイプを備考欄に明記）</p> <p>開催国は、マスクギャザリングに参加する全参加者に対し、COVID-19のラボ診断検査の実施を予定しているか？（「はい」の場合、その国が使用しているCOVID-19の診断法のタイプを備考欄に明記）</p> <p>参加者が公共交通機関を使用しなくて済むように、マスクギャザリング用の交通手段（専用車、専用バスなど）は用意されているか？</p> <p>開催国には、COVID-19を含む重症呼吸器疾患の対応に利用できる国内の公衆衛生緊急時即応準備と対応計画はあるか？</p> <p>マスクギャザリングに付随したCOVID-19の症例に対処するための自動車を提供することについて、開催国の合意を得ているか？</p> <p>参加者同士の接触を制限し、曝露期間を短縮するため、マスクギャザリングの期間の短縮は可能か？</p> <p>イベントの期間が14日以上の場合、参加者がイベントの場で感染し発病した場合に必要な、国の公衆衛生当局に役立つ公衆衛生のすべての介入を管理する実施計画書（「該当なし」と回答）は、医療対応計画に含まれているか？（イベントが14日未満の場合は「該当なし」と回答）</p> <p>イベントの期間が14日未満の場合、疑わしい症例または確定診断が下された症例がイベントに参加していたことを主催組織が把握したときに、COVID-19への曝露の可能性を参加者全員に通知するための実施計画書は、このマスクギャザリングの医療対応計画に含まれているか？（イベントが14日以上の場合は「該当なし」と回答）</p>		<p>詳細はこちらを参照： https://www.who.int/publications/i/item/advice-on-the-use-of-masks-in-the-community-during-home-care-and-in-healthcare-settings-in-the-context-of-the-novel-coronavirus-(2019-ncov)-outbreak</p> <p>詳細はこちらを参照： https://www.who.int/publications/i/item/cleaning-and-disinfection-of-environmental-surfaces-in-the-context-of-covid-19</p> <p>詳細はこちらを参照： https://www.who.int/publications/i/item/water-sanitation-hygiene-and-waste-management-for-the-covid-19-virus-interim-guidance</p> <p>詳細はこちらを参照： https://www.who.int/news-room/commentaries/detail/immunity-passports-in-the-context-of-covid-19</p>
ステークホルダー とパートナーの調 整	<p>極めて重要と考えられる保健およびセキュリティの各部門間での連携や調整は確立されているか？</p> <p>外部のマルチセクターのステークホルダーへの報告（監視当局、WHO、CDC、ECDCなどを含む）やリスクコミュニケーションのメッセージの発信について、合意を得た、明確で分かりやすいプロセスはあるか？</p>		<p>詳細はこちらを参照： https://www.who.int/publications/i/item/considerations-for-mass-gatherings-in-the-context-of-covid-19-annex-considerations-in-adjusting-public-health-and-social-measures-in-the-context-of-covid-19</p>
指揮命令系統と対 応	<p>COVID-19のアウトブレイクに関連したマスクギャザリングのイベントを修正、制限、延期、またはキャンセルするための意思決定機関/団体はあるか、また合意を得た手順はあるか？</p> <p>マスクギャザリングに関連のあるCOVID-19の感染が疑われる場合、戦略的健康オペレーションセンターを起動させるような取り決めはあるか？</p> <p>個人の安全性に関する手順や緊急事態の軽減策（この質問票に添付されているものを含む）に関して、主催組織およびスタッフは研修や訓練を受けているか？</p>		<p>詳細はこちらを参照： https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/question-and-answers-hub/q-a-detail/q-a-on-mass-gatherings-and-covid-19</p>
スタッフ、参加者、メディア、ステークホルダーとのコミュニケーション	<p>COVID-19に関するマスクギャザリングのリスクコミュニケーション戦略は、文化的に適切な言語と対象オーディエンスに向けて具体性のあるメッセージを確実に発するものとなっているか？</p> <p>リスクコミュニケーション戦略には、ターゲットを定めたメッセージ発信（これには基本的な予防策、COVID-19の症状が出た場合に取るべき対応と手順、マスクやその他の個人防護具の正しい使用法に関する説明など）に関して視覚に訴える注意喚起が含まれる）の拡散や伝播に向けた計画が含まれているか？</p> <p>国内外の政府関係者、一般市民、メディアとの対外的なコミュニケーションを一切管理する業務やタスクに当たる指定人物またはメディア担当責任者はいるか？（「はい」の場合、備考欄に広報担当者明記）</p>		<p>詳細はこちらを参照： https://www.who.int/publications/i/item/risk-communication-and-community-engagement-(rcc)-action-plan-guidance</p>

	<p>風評に対し早い段階で対処できる。国内外のメディアやソーシャルメディアのモニタリングの体制は整っているか？(対抗するメッセージ発信に関してどのような実施計画書があるのかを備考欄にて説明。)</p> <p>国内外の主要な公式メディアチャンネルや Twitter, Facebook, Instagramなどのソーシャルメディアサイトと連携し、主催組織からのメッセージ発信（フェイクニュースおよび風評に抗するメッセージ、変更点などマスクギャザリングの状態に関する前向きなメッセージ発信を含む）をプラットフォームから提供できる体制を整えているか？</p>		
イベントの開催前および開催中のCOVID-19に関する公衆衛生意識	COVID-19の臨床的特徴、予防策、特に呼吸時のエチケットや手指衛生などの実践、物理的な距離の維持に関する公衆衛生上の助言が、すべての参加者、スタッフ、関係者に伝わっているか？		
	各自のリスクを踏まえて出席を判断できるように、リスクのある人に関する情報は全参加者に提供されている？		詳細はこちらを参照： https://www.who.int/publications/m/item/covid-19-and-ncds
	公衆衛生に関する助言については、隔離/検疫、自主的な隔離、自主的な監視などの措置の手段に関する情報が含まれているか？		詳細はこちらを参照： https://www.who.int/publications/i/item/overview-of-public-health-and-social-measures-in-the-context-of-covid-19
	イベント主催者は、疾患が蔓延する潜在的なリスクに対する理解を深め、接触追跡などの対策をスムーズに講じるため、マスクギャザリングの参加者に関して入手できる情報（出国元、その国の疫学的状況、入手可能な場合は健康データなどを含む）を収集済みか？		
	イベント主催者は、必要に応じて、国内外の当局や関係者と連絡を取り、マスクギャザリングの人口統計学的情報や開催国やその他の国々で確認された潜在的なリスクについて情報を提供しているか？		
	参加者は、マスクギャザリングに関連のあるCOVID-19の疑わしい症例または確定診断が下された症例がある場合、潜在的な曝露について本人や各国政府に対しすぐにフォローアップ（接触追跡）できるように情報を提供しているか？		詳細はこちらを参照： https://www.who.int/publications/i/item/contact-tracing-in-the-context-of-covid-19
サージキャンペーン	マスクギャザリング時の公衆衛生上の緊急事態に該当する事象（COVID-19の疑わしい症例または確定診断が下された症例など）に備えて、軽減策の資金を含め、サージに対する調整はしているか？		
	マスクギャザリング時の公衆衛生上の緊急事態に該当する事象（COVID-19の疑わしい症例または確定診断が下された症例など）に備えて、装備（例：PPE）の備蓄を含め、サージに対する調整はしているか？		
	マスクギャザリング時の公衆衛生上の緊急事態に該当する事象（COVID-19の疑わしい症例または確定診断が下された症例など）に備えて、臨時スタッフの訓練を含め、サージに対する調整はしているか？		詳細はこちらを参照： https://www.who.int/publications/i/item/considerations-for-public-health-and-social-measures-in-the-workplace-in-the-context-of-covid-19
	マスクギャザリング時の公衆衛生上の緊急事態に該当する事象（COVID-19の疑わしい症例または確定診断が下された症例など）があった場合に対応するために、ボランティアを含め、サージに対する調整はしているか？		

軽減の総スコア (%) 0

© World Health Organization 2020. 一部権利保有。この著作物は、CC BY-NC-SA 3.0 IGOのライセンスの下で使用できる。
WHOの参照番号： WHO/2019-nCoV/Mass_gathering_RAtool/2020.2

この翻訳は、世界保健機関（WHO）によって作成されたものではない。
WHOは、本翻訳の内容および正確性について責任を負わない。オリジナルの英語版が拘束力のある原本となる

COVID-19のマスクギャザリングの決定マトリックス

対応するリスク評価やリスク軽減からリスクスコアと軽減スコアを求めた後、マスクギャザリングにおけるCOVID-19の総合リスクスコアを算出することができます。これは、2つ目のタブにある決定木か、以下の決定マトリックスから行うことができます。総合的リスクは、「非常に低い」から「非常に高い」までである。マトリックスの色分けの定義の凡例も、このタブに示した。

ユーザーは、決定マトリックスの右側にある総リスクスコアを（リスク評価から）確認し、またパーセンテージ表示の緩和スコアに対応する値の範囲を確認しておく必要がある。2つのスコアを組み合わせることで、現在の修正やその他の計画での考慮点を踏まえてマスクギャザリングが行われた場合のCOVID-19の蔓延リスクを総合的に見極めることができる。

COVID-19 リスク評価タブから得たリスクアセスメントのスコアの合計	0
--------------------------------------	---

COVID-19の軽減タブから得た軽減スコアの合計(%)	0
------------------------------	---

リスクと軽減の比較による決定マトリックス				
軽減の総スコア(%)				
総リスクスコア	76~100	51~75	26~50	0~25
0	非常に低い	非常に低い	非常に低い	低い
1	非常に低い	低い	低い	中程度
2	低い	低い	中程度	中程度
3	中程度	中程度	高い	高い
4	高い	高い	非常に高い	非常に高い
5	非常に高い	非常に高い	非常に高い	非常に高い

凡例	
非常に低い	COVID-19が伝染し広く蔓延する総合的リスクは、 <u>非常に低い</u> とみなされる
低い	COVID-19が伝染し広く蔓延する総合的リスクは、 <u>低い</u> とみなされる
中程度	COVID-19が伝染し広く蔓延する総合的リスクは、 <u>中程度</u> とみなされる
高い	COVID-19が伝染し広く蔓延する総合的リスクは、 <u>高い</u> とみなされる
非常に高い	COVID-19が伝染し広く蔓延する総合的リスクは、 <u>非常に高い</u> とみなされる

© World Health Organization 2020. 一部権利保有。この著作物は、[CC BY-NC-SA 3.0 IGO](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/igo/)のライセンスの下で使用できる。

WHOの参照番号： [WHO/2019-nCoV/Mass_gathering_RAtool/2020.2](https://www.who.int/publications/m/item/WHO/2019-nCoV/Mass_gathering_RAtool/2020.2)

この翻訳は、世界保健機関（WHO）によって作成されたものではない。
WHOは、本翻訳の内容および正確性について責任を負わない。オリジナルの英語版が拘束力のある原本となる

COVID-19のマスギャザリングのリスクコミュニケーション

COVID-19のパンデミックの初期に、WHOには、対応する「インフォデミック」が世界中で発生しているという認識があった。COVID-19のインフォデミックは、情報のサージ（急増）を特徴とし、一部は真実であるが一部は虚偽で、コミュニケーションのチャンネルを越えて循環し、人々をメッセージの洪水にさらし、ヘルスコミュニケーション活動を複雑化するものである。

コミュニケーションの状況やCOVID-19のパンデミックが世界規模で生じていることを考えれば、大勢の人が集まる場所にいる人のほとんどはCOVID-19のパンデミックについて何かしらの考えをすでに抱いていることになる。そのような認識は、COVID-19に伴う本人の経験、自国の対応の現状、その他多くの個人的視点や社会的視点によってもたらされるものである。

イベントの実施方法の変更や修正を人々に受け入れてもらうには、COVID前の時代よりも明確なリスクコミュニケーションが必須となる。これは、マスギャザリングに修正が必要とされることの一部に、個人の行動の変化が含まれる場合には、特に重要となる。

マスギャザリングでのしっかりしたリスクコミュニケーションの戦略としては、以下の2点についての根本的な理解ができていることが求められる。

1. マスギャザリングの修正・変更の根拠
2. 集会の参加者のコミュニケーションのニーズ。

「マスギャザリング リスクアセスメントツール」は、マスギャザリングを安全に行うための道筋を明らかにするうえで有用であるが、スムーズに履行できるよう支援するためには、その決定の背後にある根拠を有効に伝達する必要がある。このアセスメントツールは、意思決定のプロセスの透明化を図り、マスギャザリング参加者を納得させるうえで役立つものであるため、メッセージを組み立てるうえで貴重なリソースにもなる。

COVID-19を取り巻く疫学的状況は動的であり、マスギャザリングのリスク状況を変えるような変更が生じる可能性がある。したがって、主催組織は、そのような不確実性について予め認識し、意思決定のプロセスへの影響の説明ができるように、またさらなる変更の必要性が生じた場合にその旨も指摘できるようにが必要であることを指摘できるように、準備しておく必要がある。

リスクコミュニケーション戦略に柔軟性をもたせて組み立て、不確実性を認識し、意思決定プロセスの透明化を図ることは、有効なリスクコミュニケーションに不可欠な要素である。リスクコミュニケーション戦略は、ニーズのアセスメントとコミュニケーションのための適切なチャンネル（パートナーやコミュニティのエンゲージメントを通して）の特定からスタートすることが望ましい。また、信頼性をもたらす情報の拡散に役立つインフルエンサーを定め、ターゲットとなるオーディエンスに情報を届ける最適な方法を見出し、風評や誤報をモニタリングおよび管理するためのツールを特定し、効果を評価して今後の業務に役立つ情報が得られるような評価を計画する必要がある。

「リスクアセスメントツール」の「リスク軽減」セクションでは、これらの戦略を構成する要素を多数取り上げ、修正の指針となるように設計された実行性のあるステップに置き換えている。これらの質問と、このセクションに掲載されているその他の質問は、リスクコミュニケーション戦略を開始するときに利用できるものである。

組織として支援を求める場合は、国内の保健所がリスクコミュニケーション戦略に関する情報を提供するサービスを行っている可能性がある。また、これらの取り組みに有益な情報が得られる無料のリソースは、下記のWHOから公開されているものを含め、多数揃っている。

WHOによるリソースのリンク：

- リスクコミュニケーションの重要性 - 研修 (<https://openwho.org/courses/risk-communication>)
- 公衆衛生緊急事態におけるコミュニケーションリスクに関するガイドライン (<https://www.who.int/publications/i/item/communicating-risk-in-public-health-emergencies>)
- リスクコミュニケーション：よくある質問 (<https://www.who.int/news-room/q-a-detail/risk-communication-frequently-asked-questions>)

WHOによるCOVID-19専用リソースのリンク：

- リスクコミュニケーションとコミュニティエンゲージメント（RCCE）行動計画ガイダンス COVID-19 準備と対応 (<https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/technical-guidance/risk-communication-and-community-engagement>)
- 2019年新型コロナウイルス(2019-nCoV)へのリスクコミュニケーションとコミュニティエンゲージメント（RCCE）の準備と対応 (<https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/technical-guidance/risk-communication-and-community-engagement>)

© World Health Organization 2020. 一部権利保有。この著作物は、[CC BY-NC-SA 3.0 IGO](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/)のライセンスの下で使用できる。

WHOの参照番号： [WHO/2019-nCoV/Mass_gathering_RAtool/2020.2](https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/technical-guidance/risk-communication-and-community-engagement)

この翻訳は、世界保健機関（WHO）によって作成されたものではない。
WHOは、本翻訳の内容および正確性について責任を負わない。オリジナルの英語版が拘束力のある原本となる